

< 第 4 回政策討論会発表資料 >

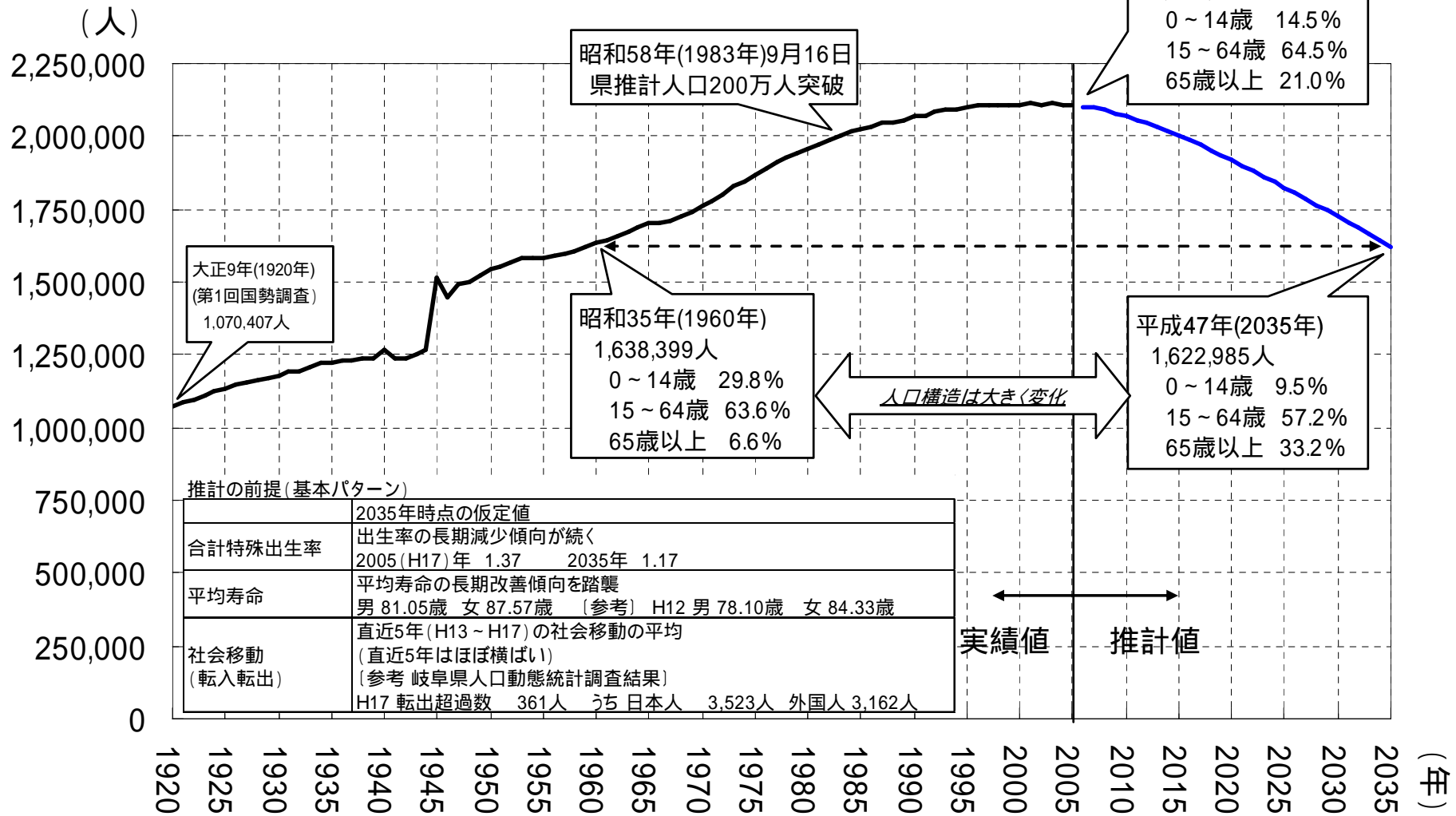
地域別に見た人口の変化

平成 1 9 年 1 2 月 2 5 日
岐阜県の将来構想研究会

本レポートは、「岐阜県の将来構想研究会」における研究の途中経過として、現状認識と考える方向性をまとめたものであり、県としての公式な考え方を示したものではありません。

岐阜県の人口は、約30年後（2035年）には岐阜市を上回る人口（約48万人）が減少し、65歳以上人口が33.2%を占めるいびつな人口構造になると推計される。

岐阜県の将来人口(基本パターン)



備考: 将来人口推計は、人口・少子化問題研究会に設置された「人口推計作業部会」が実施。(平成18年度)

(年) 2

1 長期間（30年）の地域別人口変化

昭和50年（H17から30年前）と比べ人口が増加した地域は南部に集中している

～すでに多くの地域で人口減少を迎えている～

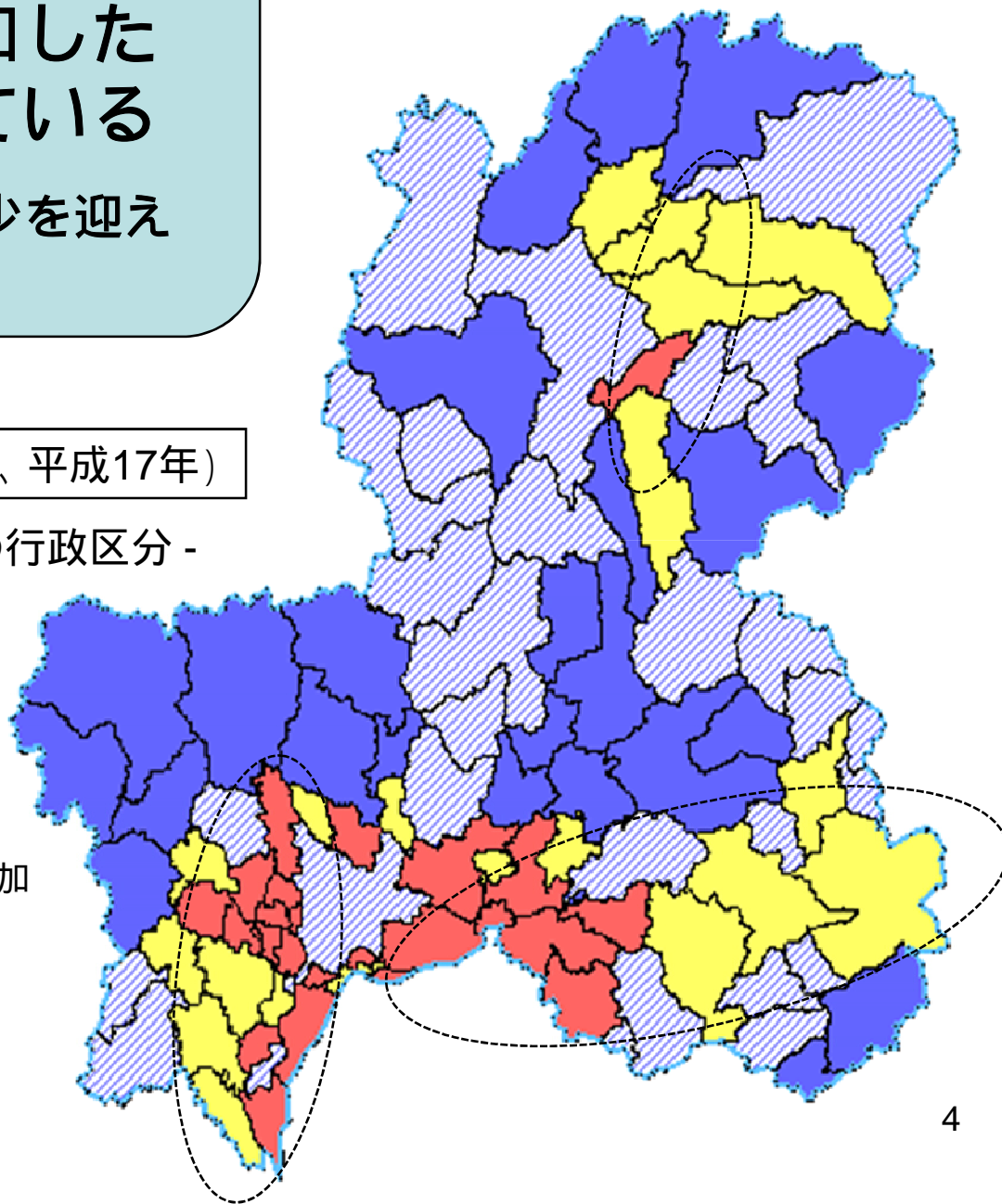
市町村別人口指数(昭和50年=100、平成17年)

- 平成12年10月1日現在の行政区分 -

- 120以上
- 100以上120未満
- 80以上100未満
- 80未満

地域別にみると、30年前と比べ人口が増加している地域は、南部と高山市の周辺部。

県人口の人口指数 112.8(S50=100)



人口増加地域とは対照的に、 人口が減少している地域ほど 高齢化が顕著

～ 高齢層の人口割合が高まると、人口の
自然減を引き起こし、人口減少に至る
(= 多死社会) ～

市町村別老年化指数

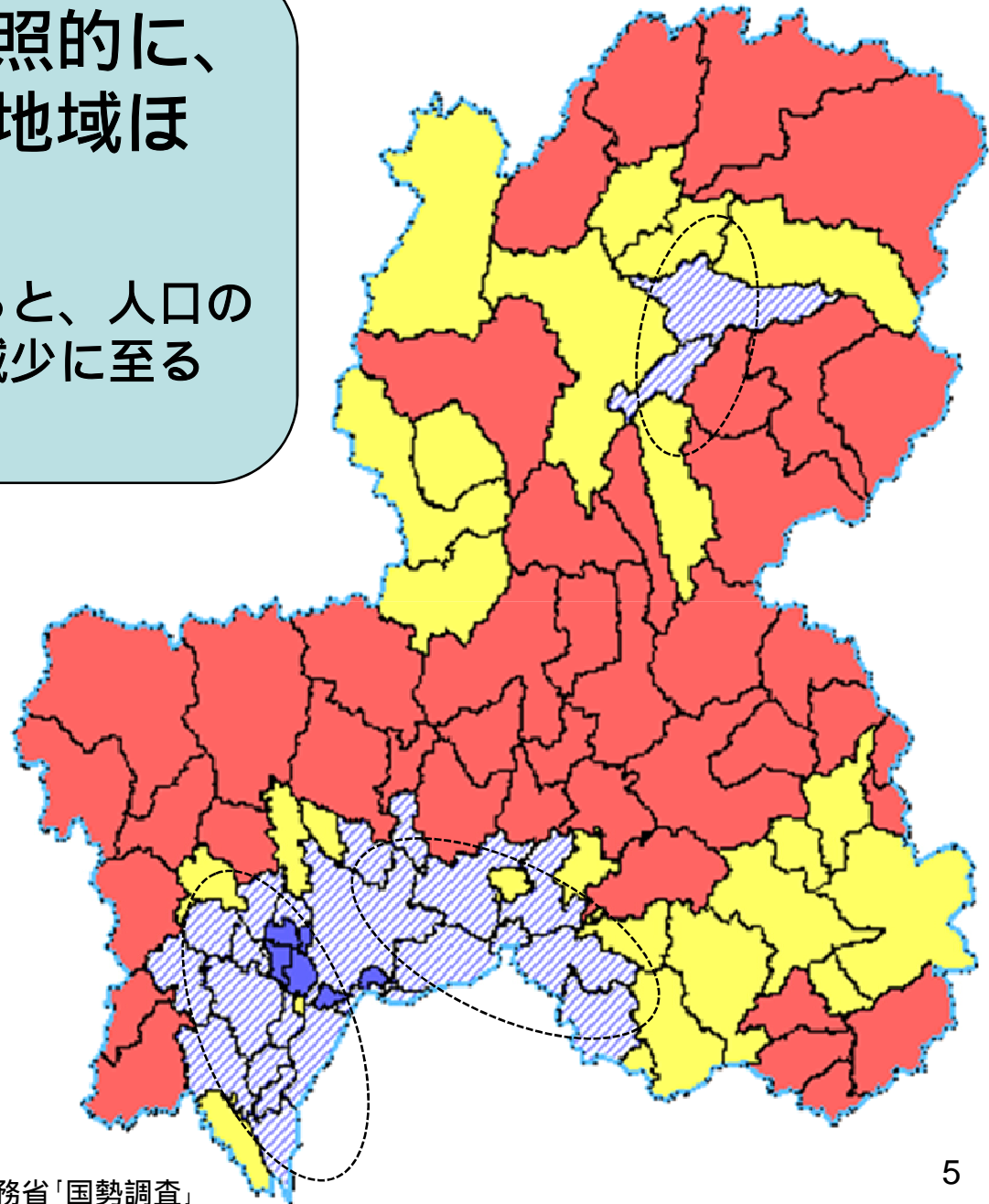
(平成12年10月1日現在の行政区分)

県人口の老年化指数 144.6



老年化指数200以上

24市町村(H12)→43市町村(H17)



出典:総務省「国勢調査」

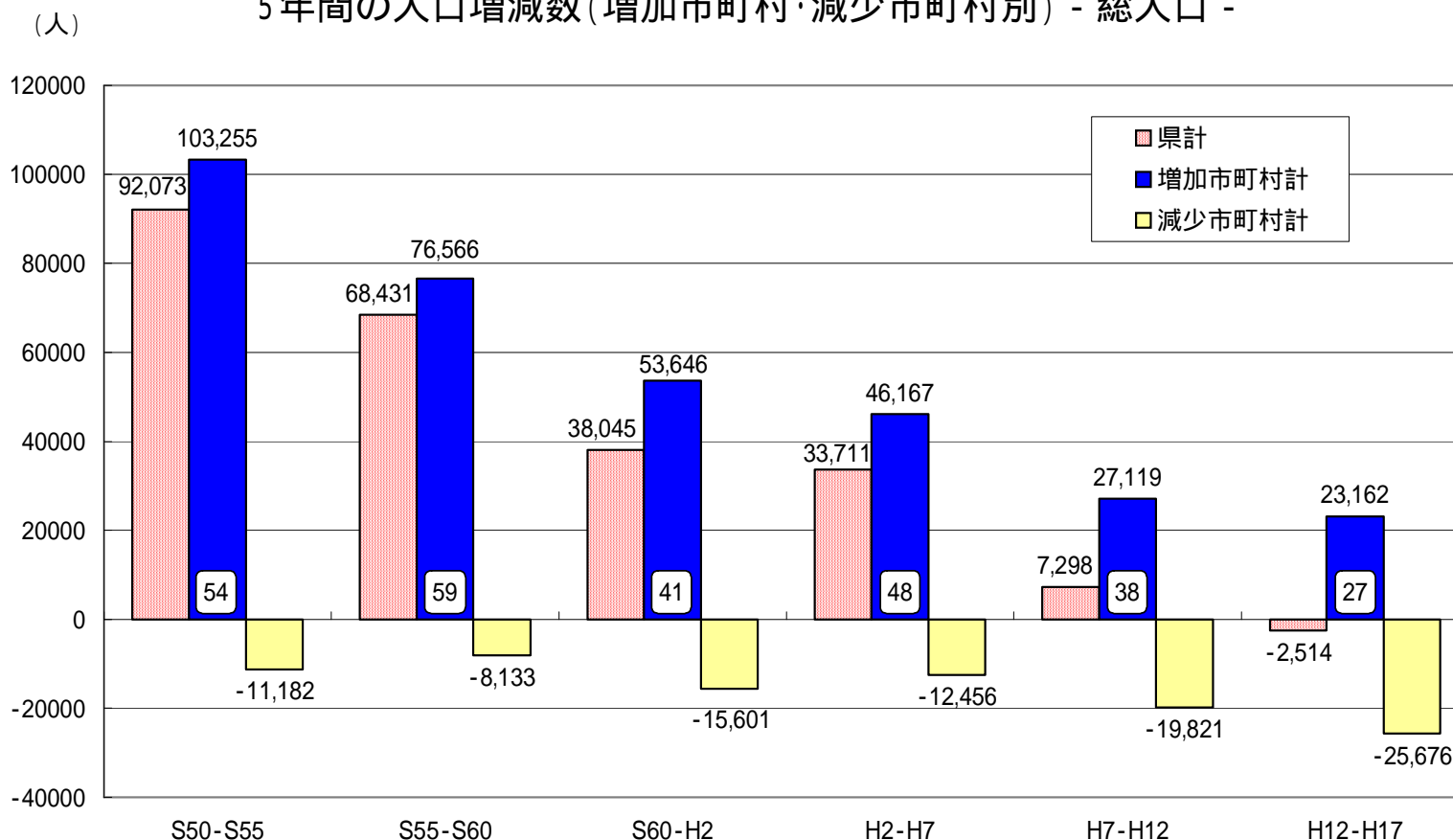
備考:老年化指数 = (老年人口(65歳以上人口) ÷ 年少人口(0～14歳人口)) × 100

昭和50年と比較して、

- ・人口増加市町村数は半分に縮小、
- ・人口増加数は1 / 4以下の2万3千人に

人口増加市町村と減少市町村ごとの増減数計の推移(100市町村で算出)

5年間の人口増減数(増加市町村・減少市町村別) - 総人口 -

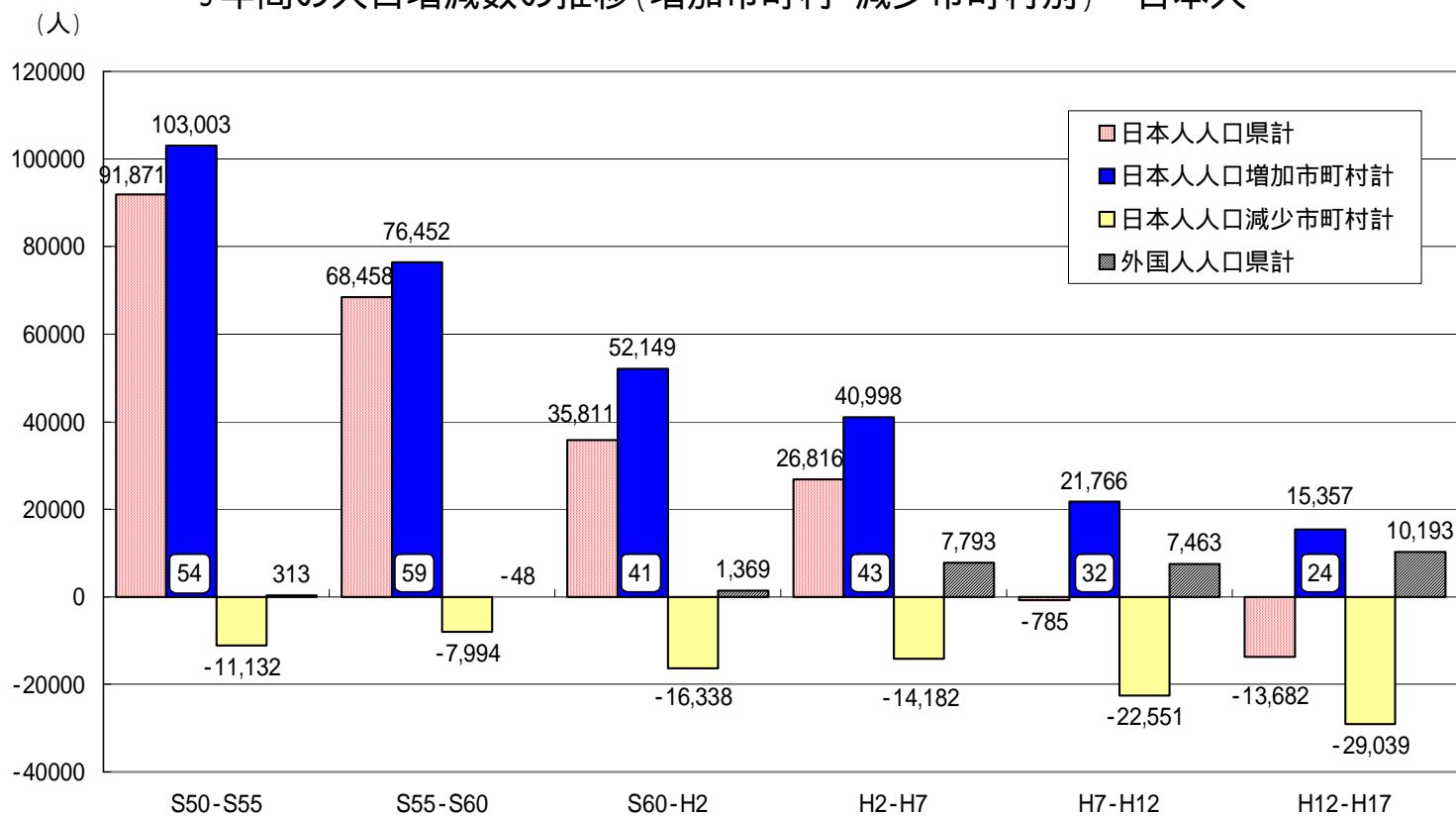


出典：総務省「国勢調査」(旧山口村含む100市町村で算出。棒グラフの内の数値は増加市町村数。)

日本人でみると

- ・人口増加市町村は更に縮小、
- ・人口増加数も1万5千人に大きく縮小
(日本人人口は平成12年に既に減少)

5年間の人口増減数の推移(増加市町村・減少市町村別) - 日本人 -



出典：総務省「国勢調査」(旧山口村を含む100市町村で算出。棒グラフの内の数値は増加市町村数。)

七宗町、八百津町等は30年後(H47)の県の姿に到達

年齢構造（65歳以上人口の割合）が、H17時点で将来の県の水準にまで達している
主な市町村

	県の年齢3区分割合			市町村名	H17の年齢3区分割合		
	0～14歳	15～64歳	65歳～		0～14歳	15～64歳	65歳～
H22	13.7	62.6	23.7	山県市	13.7	64.3	22.0
H27	12.3	60.4	27.3	関ヶ原町	12.5	61.2	26.3
H32	10.8	59.8	29.4	下呂市	13.5	56.7	29.8
H37	9.9	59.7	30.5	飛騨市	13.4	56.7	30.0
H42	9.6	58.7	31.7	八百津町	12.4	57.6	30.1
H47	9.5	57.2	33.2	七宗町	11.5	54.8	33.6
すでに30年後の水準を超えている団体				白川町	13.0	51.9	35.1
				東白川村	13.8	50.4	35.8

1 長期間(30年)の地域別人口変化のまとめ

- 30年前の昭和50年の人口と比べ増加した地域は南部に集中。
(人口重心も南部に移動)
→ すでに多くの地域が人口減少社会を経験している。
- 人口が減少している地域は高齢化が進んでいる。
→ 自然減(=多死社会)となり、人口減少に。

2 都市圏でみた人口

都市圏設定の考え方

「人の流れ」に着目して設定

原則として、就業者のうち、中心都市への通勤者が10%を超える市町を周辺としとして設定。

中心都市は原則としてDID人口1万人以上の都市を設定。

上記によらない場合は単独の都市圏とした。多治見市は名古屋への通勤者が15%を占めており、「名古屋都市圏」と言えるが、ここでは単独の都市圏とした。

経済産業省の「地域産業構造分析」も同様の考え方で都市圏を設定している。

都市圏一覧

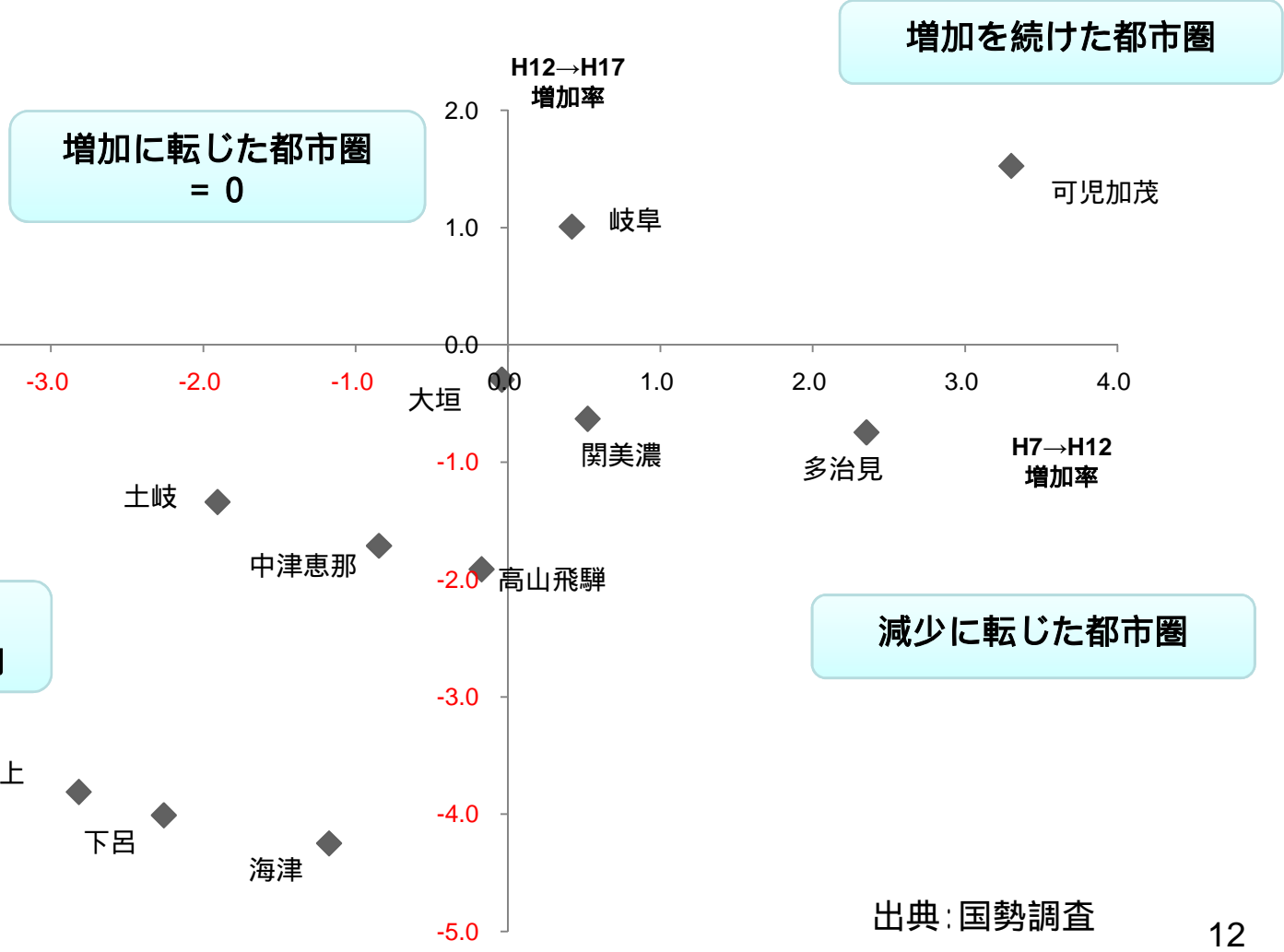
H17国勢調査

都市圏			中心都市への通勤率
岐阜	中心都市	岐阜市	
	周辺	羽島市	11.9
	"	各務原市	13.2
	"	岐阜南町	27.6
	"	笠松町	19.6
	"	山県市	27.6
	"	瑞穂市	21.1
	"	本巣市	22.1
	"	北方町	28.0
大垣	中心都市	大垣市	
	周辺	養老町	23.1
	"	垂井町	22.7
	"	関ヶ原町	15.3
	"	神戸町	23.3
	"	輪之内町	17.5
	"	安八町	16.1
	"	揖斐川町	8.5 池田町へ6.6
	"	池田町	17.3
海津		海津市	
関美濃	中心都市	関市	
	周辺	美濃市	19.9
可児加茂	中心都市	可児市	
	周辺	美濃加茂市	12.3
	"	八百津町	16.5
	"	御壽町	23.3
	"	坂祝町	19.7 2次・美濃加茂へ
	"	富加町	18.8 2次・美濃加茂へ
	"	川辺町	19.0 2次・美濃加茂へ
	"	七宗町	13.3 2次・美濃加茂へ
	"	白川町	4.2 美濃加茂へ
多治見		東白川村	6.2 白川町へ
		多治見市	名古屋へ15.5
土岐	中心都市	土岐市	
	周辺	瑞浪市	11.9
中津恵那	中心都市	中津川市	恵那市へ8.2
	周辺	恵那市	12.5
郡上		郡上市	
高山	中心都市	高山市	
	周辺	飛騨市	20.9
	"	白川村	通勤者は少ない
下呂		下呂市	

10年間で増加を続けた都市圏は、岐阜と可児加茂のみ。多くの都市圏で減少が続いている。

H7～17の総人口増加率

	H7→12	H12→17
岐阜	0.4	1.0
大垣	-0.0	-0.3
海津市	-1.2	-4.2
関美濃	0.5	-0.6
可児加茂	3.3	1.5
多治見市	2.4	-0.7
土岐瑞浪	-1.9	-1.3
中津恵那	-0.8	-1.7
郡上市	-2.8	-3.8
高山飛騨	-0.2	-1.9
下呂市	-2.3	-4.0



都市圏の成長イメージ

「変貌する都市圏」日本経済新聞社・日経産業消費研究所参考

都市圏は、中心部への人口集中→周辺都市への人口分散→周辺都市の人口増、
中心都市の人口減少→中心・周辺とも人口減少→中心都市の再増加
という成長過程をたどる。

イメージ図(各期の呼び方は研究員の案)

中心都市人口の伸び率

周辺都市人口の伸び率

D 転換期(集中型)

周辺都市の人口は減少したが、
中心都市の人口は増加
→状況次第で高齢期・青年期にも移行
する可能性あり

A 青年期(拡張型)

中心・周辺都市ともに人口が増加

C 高齢期(収縮型)

中心・周辺都市ともに人口が減少

B 熟年期(ドーナツ型)

周辺都市の人口は増加したが、
中心都市の人口は減少

岐阜は周辺人口（各務原等）が増加するドーナツ型。可児・大垣・関は中心都市で人口が増加する集中型。製造業が好調な地域は都市の活力が維持されていると考えられる。

H12→17人口伸率

中心都市伸率

出典：国勢調査

D 転換期(集中型)

周辺都市の人口は減少したが、中心都市の人口は増加
→状況次第で高齢期・青年期にも移行する可能性あり

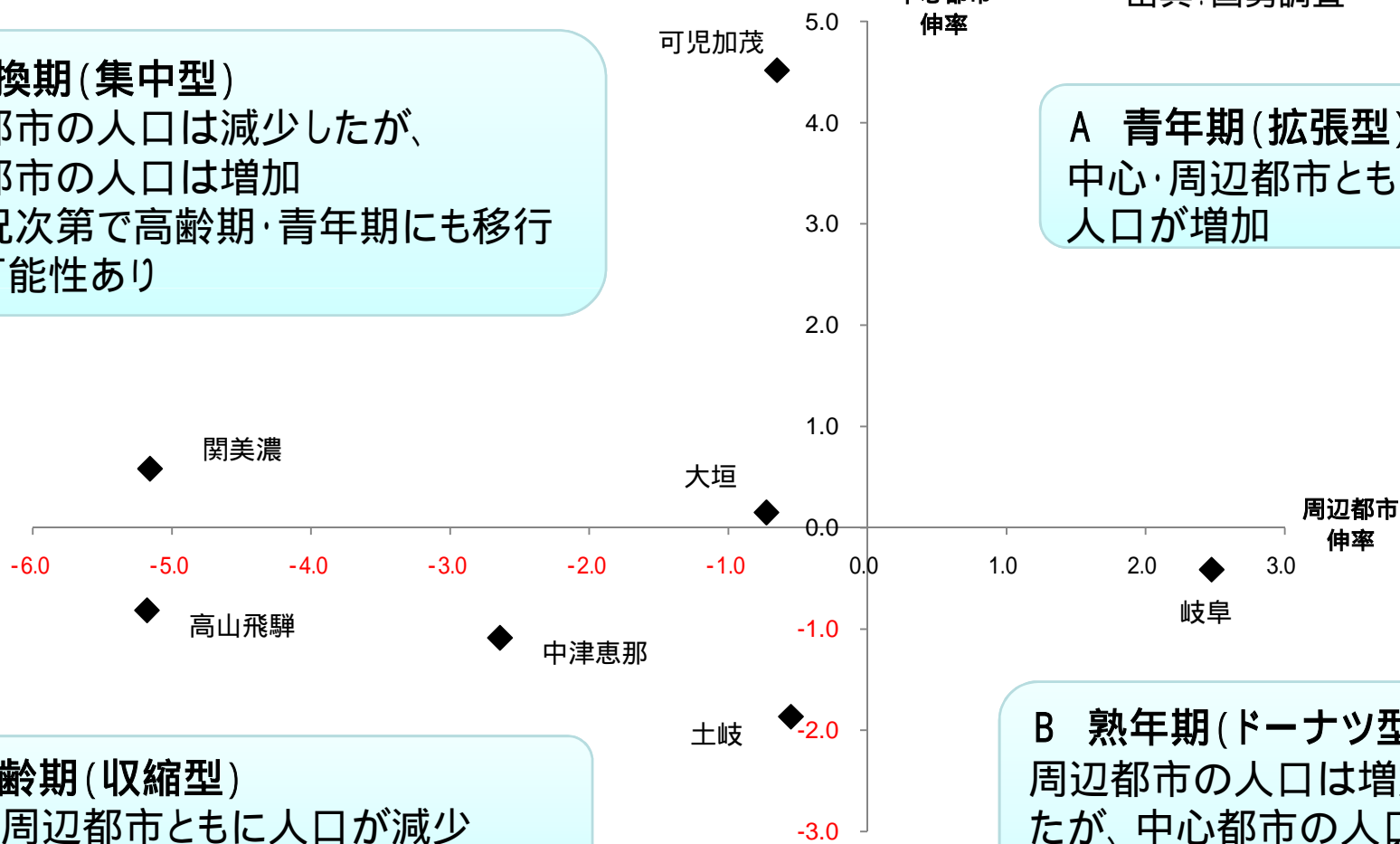
A 青年期(拡張型)
中心・周辺都市ともに人口が増加

C 高齢期(収縮型)

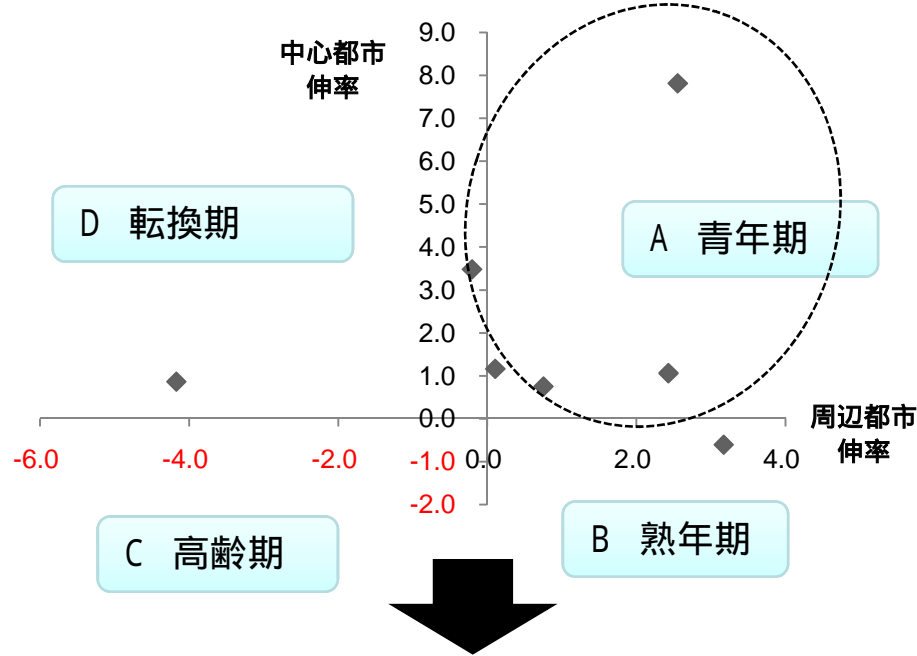
中心・周辺都市ともに人口が減少

B 熟年期(ドーナツ型)

周辺都市の人口は増加したが、中心都市の人口は減少



H2→7人口伸率



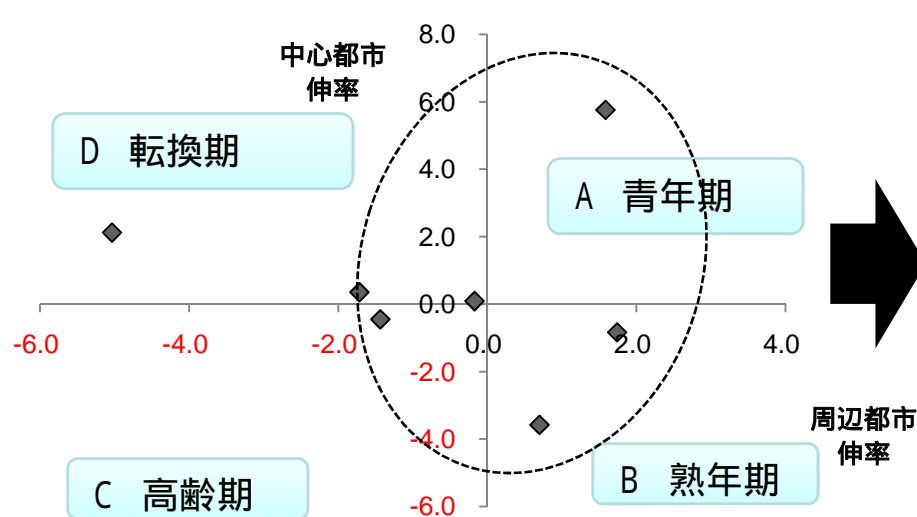
かつて多くを占めた青年期の都市圏は消滅。青年期から高齢期ゾーンの方へシフトが進んでいる。

岐阜市は「熟年期」ゾーンのまま変わらず。

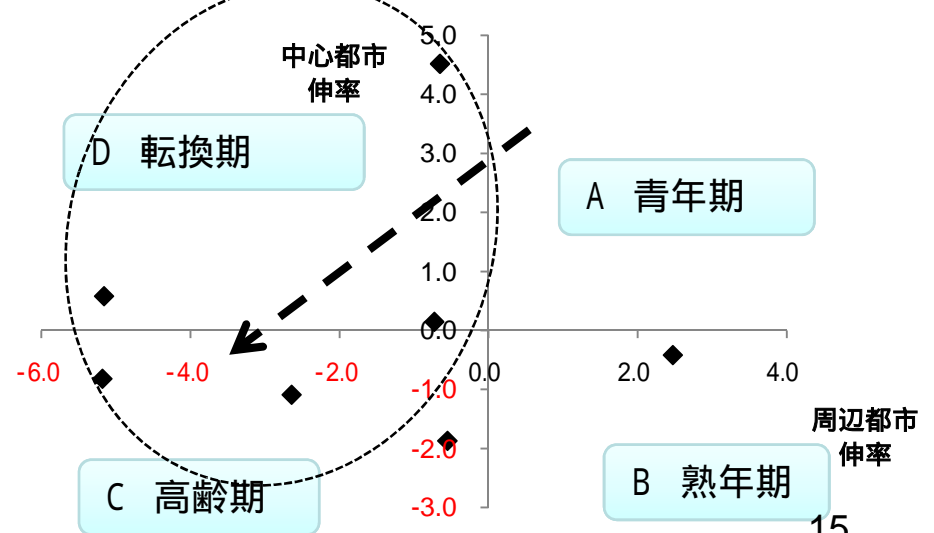
	H2→7		H7→12		H12→17	
	中心都市	周辺都市	中心都市	周辺都市	中心都市	周辺都市
岐阜	-0.6	3.2	-0.8	1.7	-0.4	2.5
大垣	0.7	0.8	0.1	-0.2	0.2	-0.7
関美濃	3.5	-0.2	2.1	-5.0	0.6	-5.2
可児加茂	7.8	2.6	5.8	1.6	4.5	-0.7
土岐瑞浪	1.1	2.4	-3.6	0.7	-1.9	-0.6
中津恵那	1.2	0.1	-0.4	-1.4	-1.1	-2.6
高山飛騨	0.9	-4.2	0.4	-1.7	-0.8	-5.2

出典：国勢調査

H7→12人口伸率



H12→17人口伸率

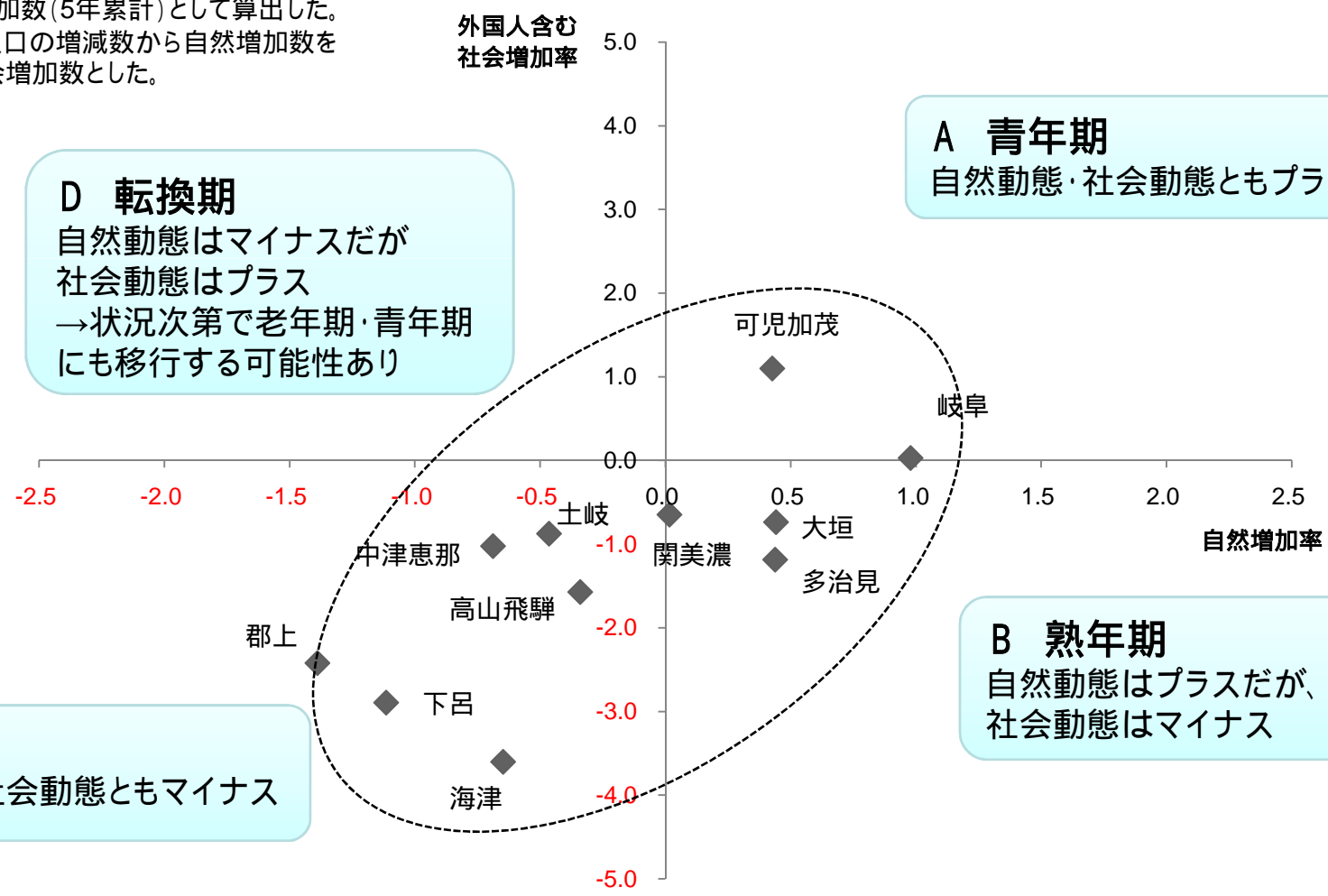


人口動態からみた都市圏の成長イメージ

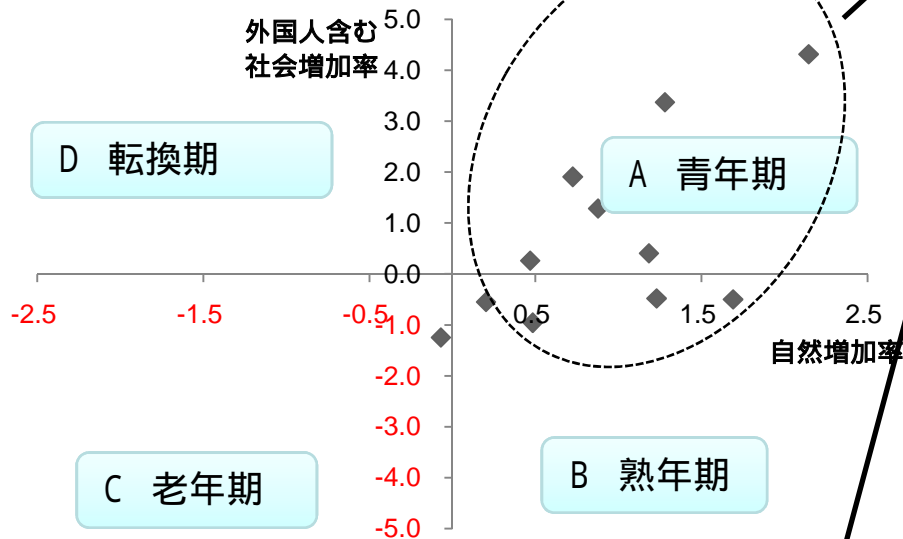
人口動態が青年期にある都市圏は可児加茂のみ。多くの都市圏が老年期に入っている。

H12→17の人口動態

出典：国勢調査、厚生労働省人口動態統計
・自然増加率は厚労省人口動態統計による出生・死亡(日本人)数を自然増加数(5年累計)として算出した。
・国勢調査による総人口の増減数から自然増加数を差し引いたものを社会増加数とした。



H2→7の人口動態

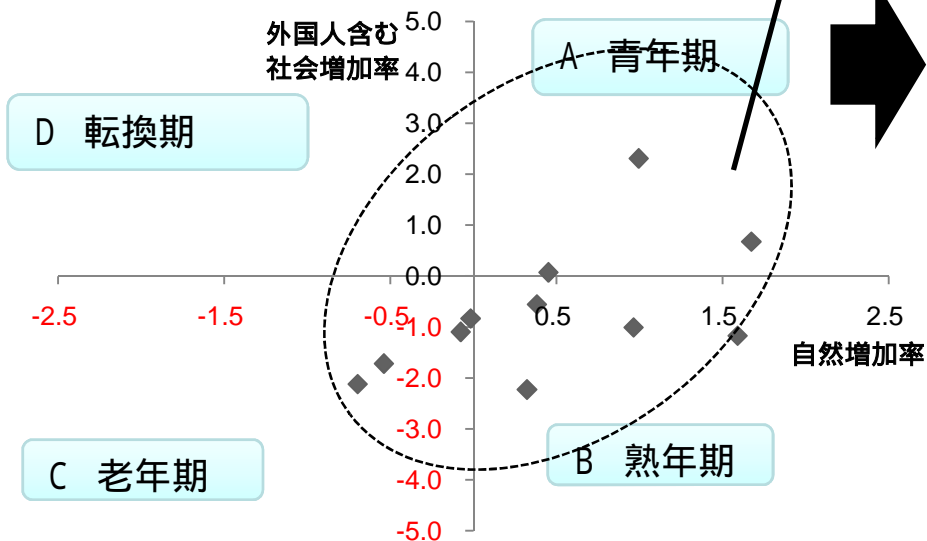


自然動態・社会動態ともプラスで成長過程にあった。

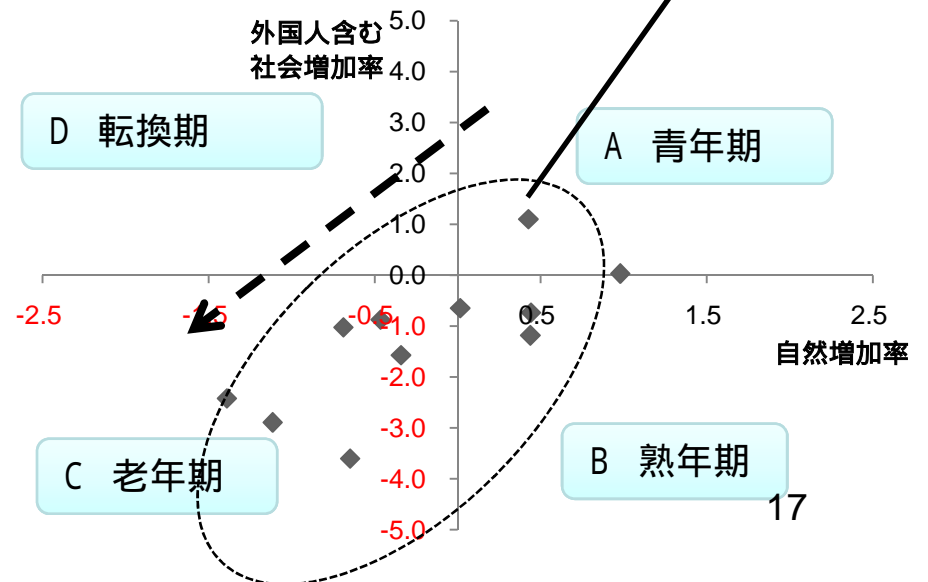
社会動態のマイナスが始まり、自然動態はプラスを維持するも勢いを失い、熟年化。

社会動態のマイナスに加え、自然動態もマイナスに転じて、老年化。

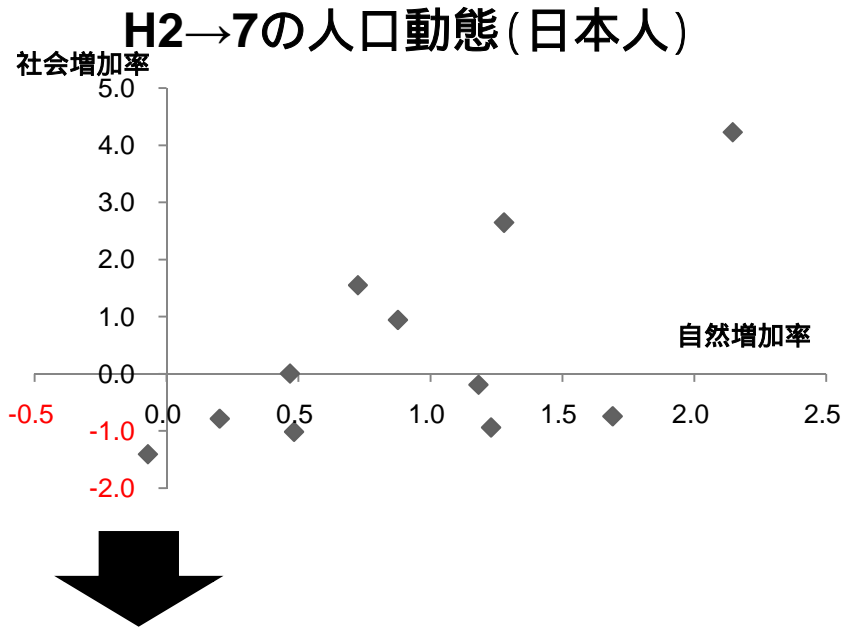
H7→12の人口動態



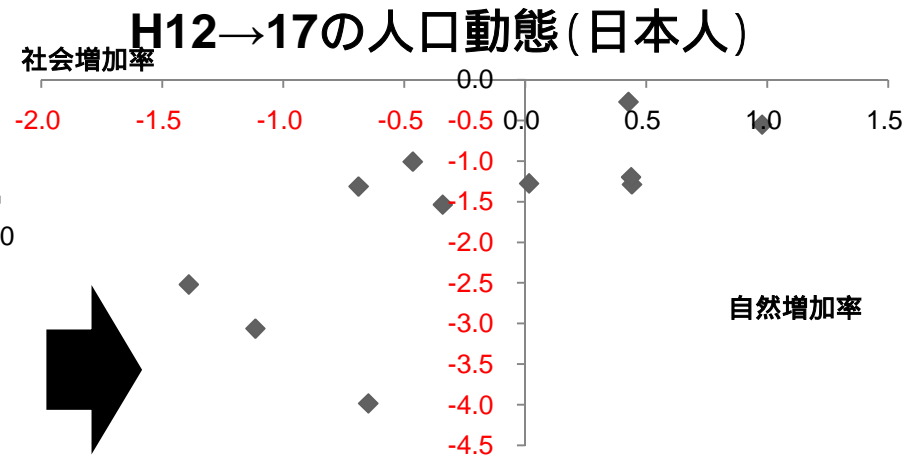
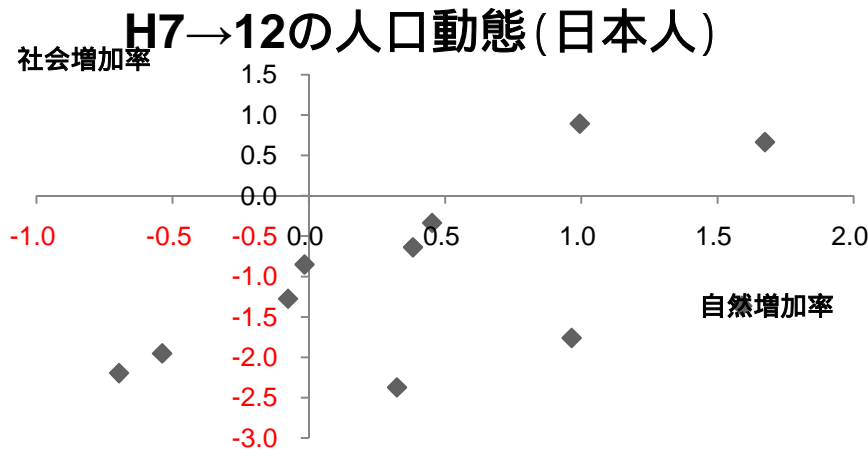
H12→17の人口動態



人口動態を日本人のみで見ると、全ての都市圏が熟年期・老年期。若い世代の流出が大きく影響。



出典:国勢調査、厚生労働省人口動態統計
 ・自然増加率は厚労省人口動態統計による出生・死亡(日本人)数を自然増加数(5年累計)として算出した。
 ・国勢調査による日本人人口の増減数から自然増加数を差し引いたものを社会増加数とした。



社会動態のマイナスは都市の衰退を加速する。
若い世代の流出は将来の自然動態のマイナスを
さらに加速させる。

高齢化が進んだ現在の人口構造では自然動態を
プラスに転じさせることは容易ではない。

都市を「転換期」に導くには、人を地域に引き
留め、社会動態のマイナスを抑制する以外にな
い。

3 都市圏別に見た将来推計人口

推 計 の 概 要

1. 推計の概要

- ・基準人口は平成17年国勢調査による人口(年齢不詳按分済み)を用いる。
- ・推計期間は平成17(2005)～平成47(2035)年まで5年ごとの30年間とし、男女別・5歳階級別に総人口を推計。
- ・なお、推計の客観性を担保するため、中央大学経済学部和田光平教授よりご指導をいただいた。

2. 推計手法

国立社会保障・人口問題研究所が推計した2030年までの市町村別、男女・年齢5歳階級別人口(総人口)の変化が2035年まで継続すると仮定して2035年まで補外推計を行った。

すでに公表されている平成17年国勢調査結果とのバランスに留意し、市町村別、男女・年齢階級別人口(総人口)に平成17年時点における社人研推計値との格差を計算し、この格差を2035年まで反映させ、2010～2035年までの市町村人口の基礎数値とした。

上記 による基礎数値をもとに、全市町村の合計と昨年県人口少子化問題研究会が実施した岐阜県の将来推計人口(基本パターン)の値が一致するよう必要な補正を行い、2035年までの推計を行った。

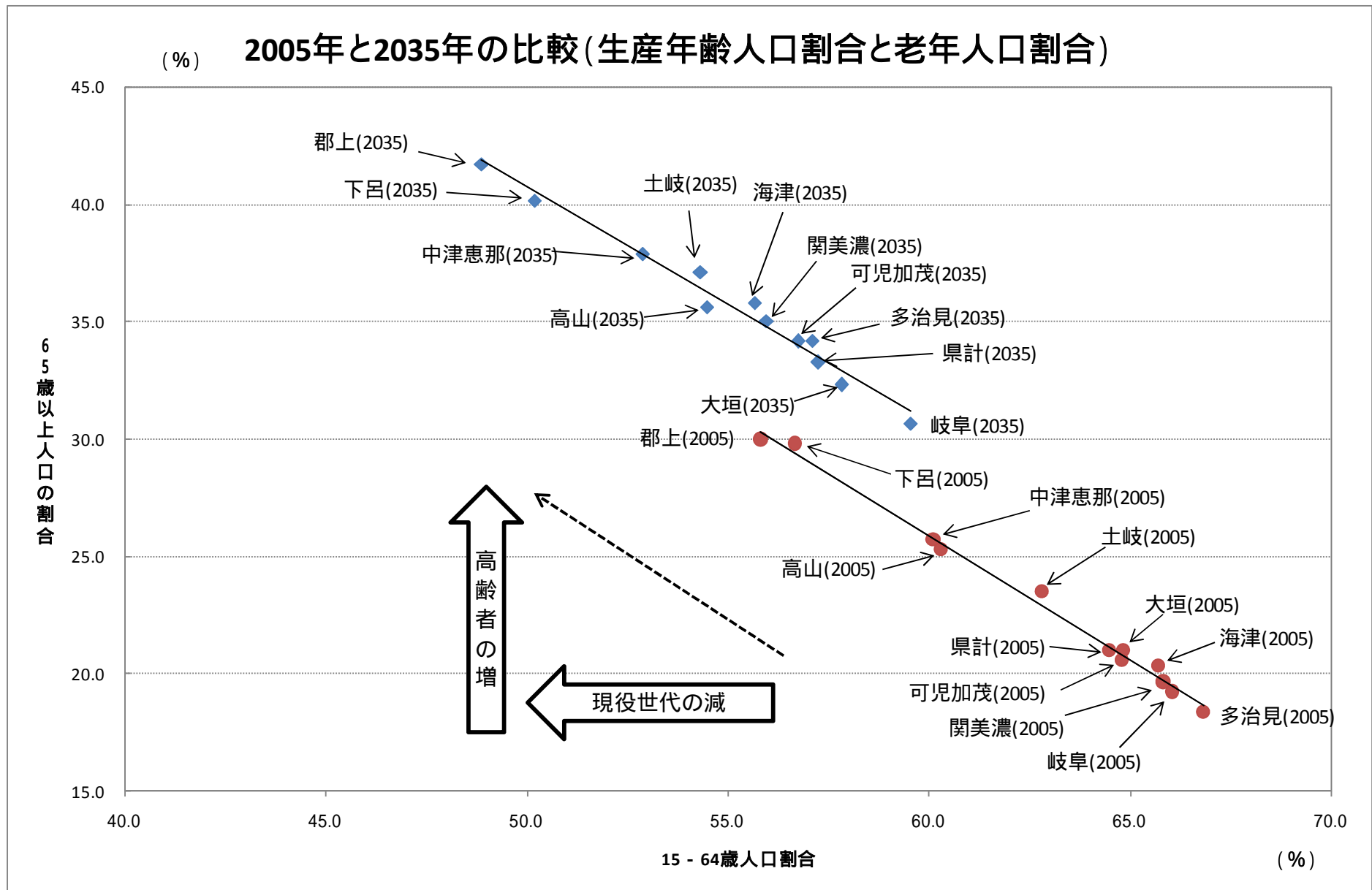
推 計 結 果

都市圏	2005年国勢調査人口							2035年推計人口							
	総人口	3区分別人口			3区分別人口割合			総人口	指数	3区分別人口			3区分別人口割合		
	2005年	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口	2035年	2035年	年少人口	生産年齢人口	老年人口	年少人口	生産年齢人口	老年人口
県計	2,107,226	306,089	1,358,679	442,458	14.5	64.5	21.0	1,622,985	77.0	154,558	928,789	539,637	9.5	57.2	33.2
岐阜	826,006	121,767	545,385	158,851	14.7	66.0	19.2	646,514	78.3	63,444	384,764	198,305	9.8	59.5	30.7
大垣	328,396	48,118	212,738	67,539	14.7	64.8	20.6	251,318	76.5	24,829	145,285	81,203	9.9	57.8	32.3
海津	39,453	5,505	25,920	8,029	14.0	65.7	20.3	29,038	73.6	2,492	16,156	10,390	8.6	55.6	35.8
関美濃	115,987	16,452	75,176	24,359	14.2	64.8	21.0	87,588	75.5	7,924	48,999	30,665	9.0	55.9	35.0
可児加茂	225,395	32,761	148,333	44,300	14.5	65.8	19.7	184,767	82.0	16,853	104,817	63,097	9.1	56.7	34.1
多治見	114,876	16,999	76,749	21,127	14.8	66.8	18.4	96,072	83.6	8,402	54,835	32,835	8.7	57.1	34.2
土岐	104,167	14,294	65,405	24,468	13.7	62.8	23.5	76,189	73.1	6,535	41,371	28,284	8.6	54.3	37.1
中津恵那	139,841	19,860	84,038	35,944	14.2	60.1	25.7	100,839	72.1	9,333	53,296	38,210	9.3	52.9	37.9
郡上	47,495	6,752	26,506	14,238	14.2	55.8	30.0	30,829	64.9	2,904	15,065	12,860	9.4	48.9	41.7
高山飛騨	127,116	18,368	76,617	32,132	14.4	60.3	25.3	95,107	74.8	9,454	51,794	33,859	9.9	54.5	35.6
下呂	38,494	5,213	21,810	11,472	13.5	56.7	29.8	24,723	64.2	2,388	12,406	9,930	9.7	50.2	40.2

備考：年齢不詳人口を按分した人口による

県計は平成18年岐阜県人口・少子化問題研究会の将来人口推計(基本パターン)による

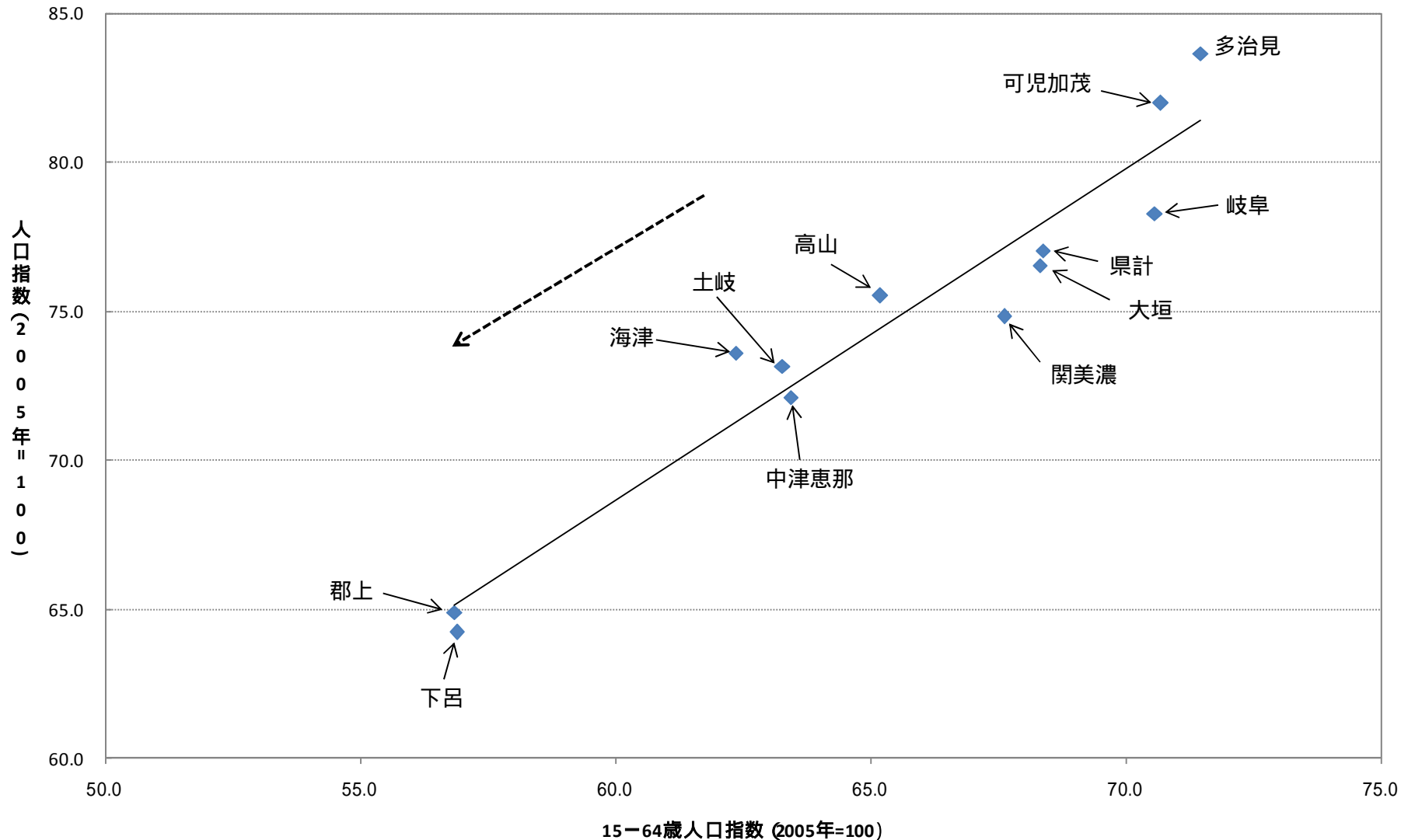
どの地域も現役世代が減少し、高齢者が増加する。



現役世代の減少が大きい地域ほど人口は減少 高齢化進む

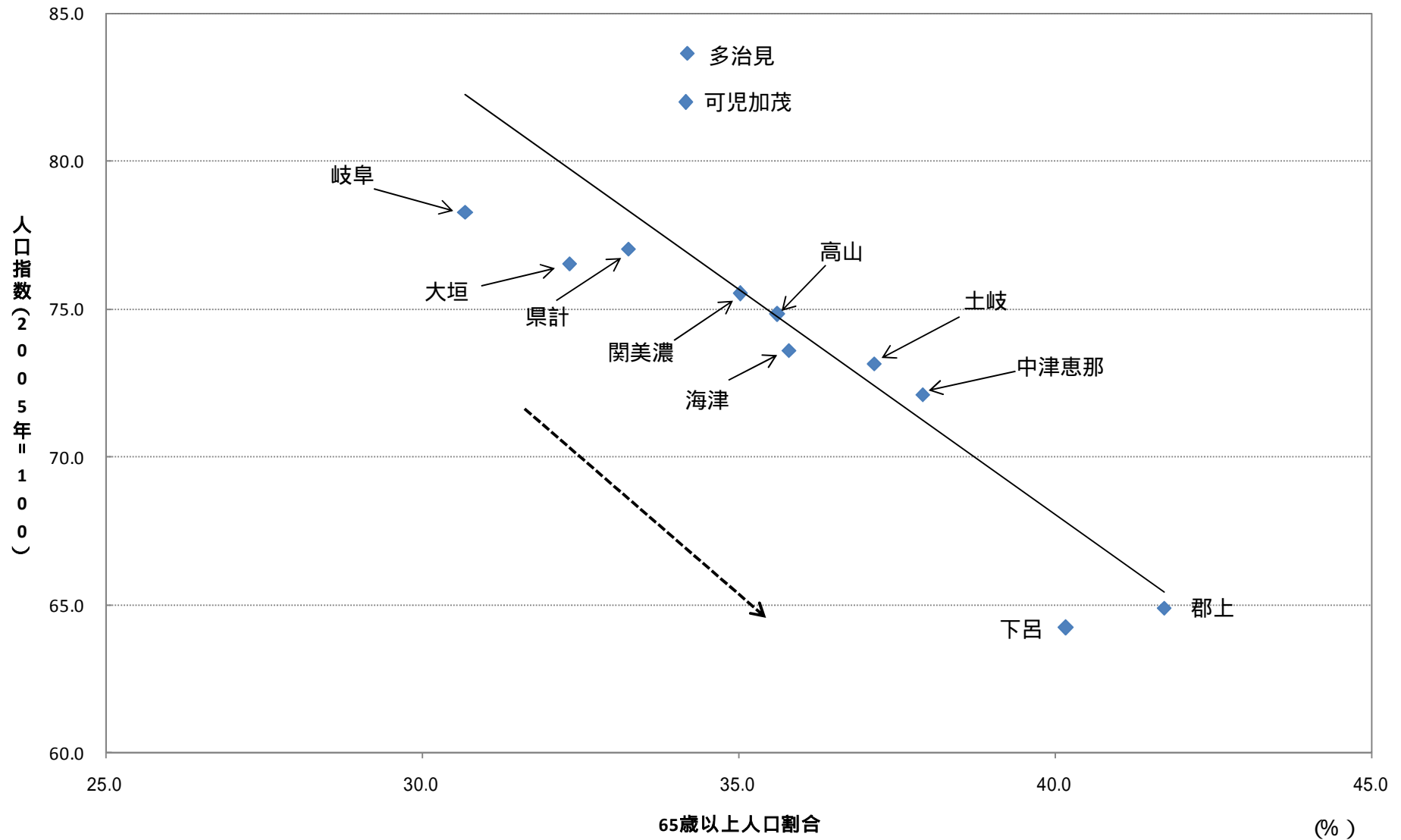
高齢化進む

生産年齢人口指数 × 人口指数 (2005=100)

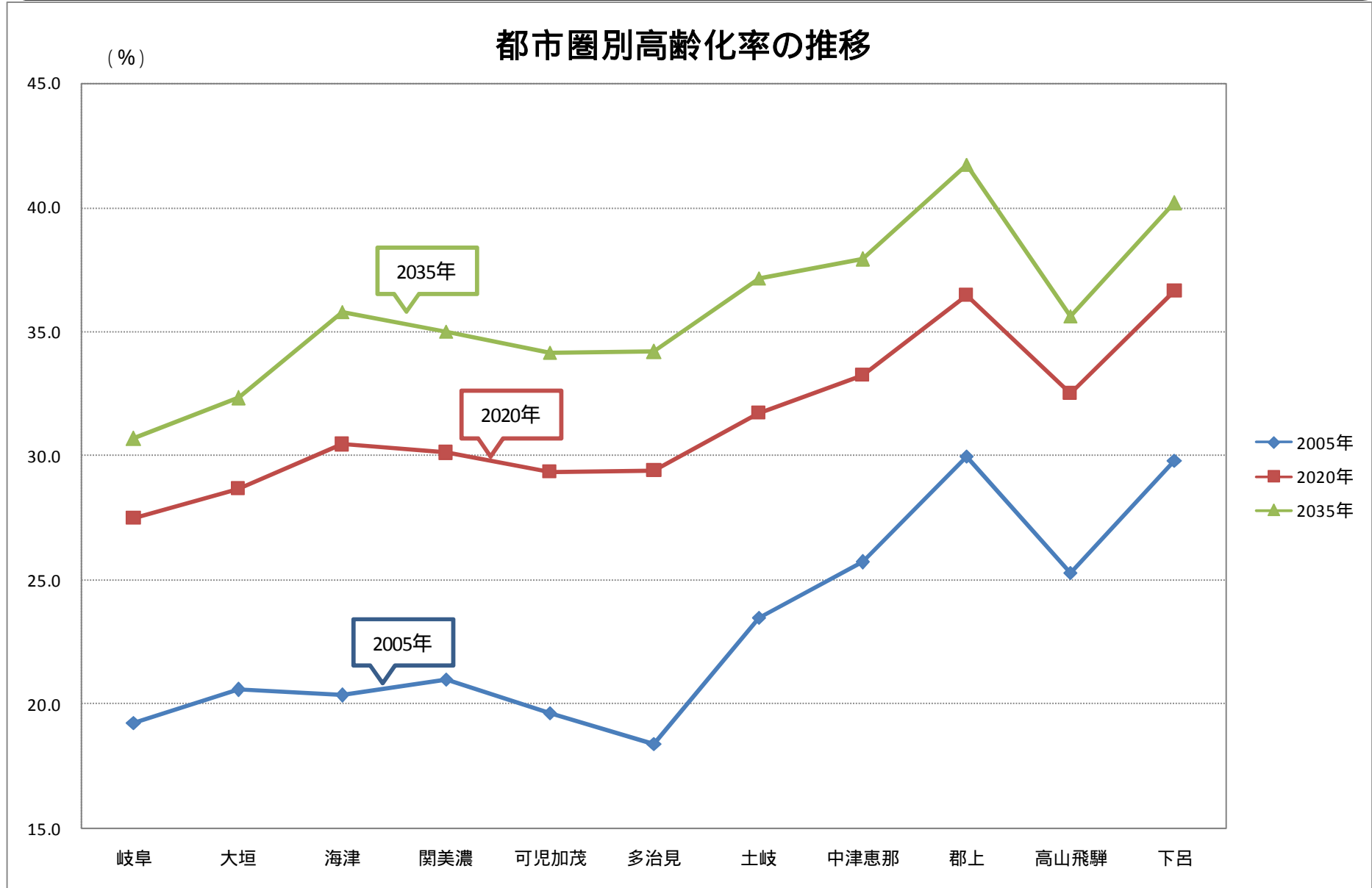


高齢者が多い地域ほど人口は大きく減少。 死亡数の増

老年人口割合 × 人口指数 (2005=100)



高齢化率（65歳以上人口割合）は一律に上昇するが、スピードやレベルには差がある。



増減の実数からインパクトを把握

岐阜都市圏では、現在より高齢者が4万人増加。比較的人口構成が若い、可児加茂、多治見等も高齢者の増加が顕著。

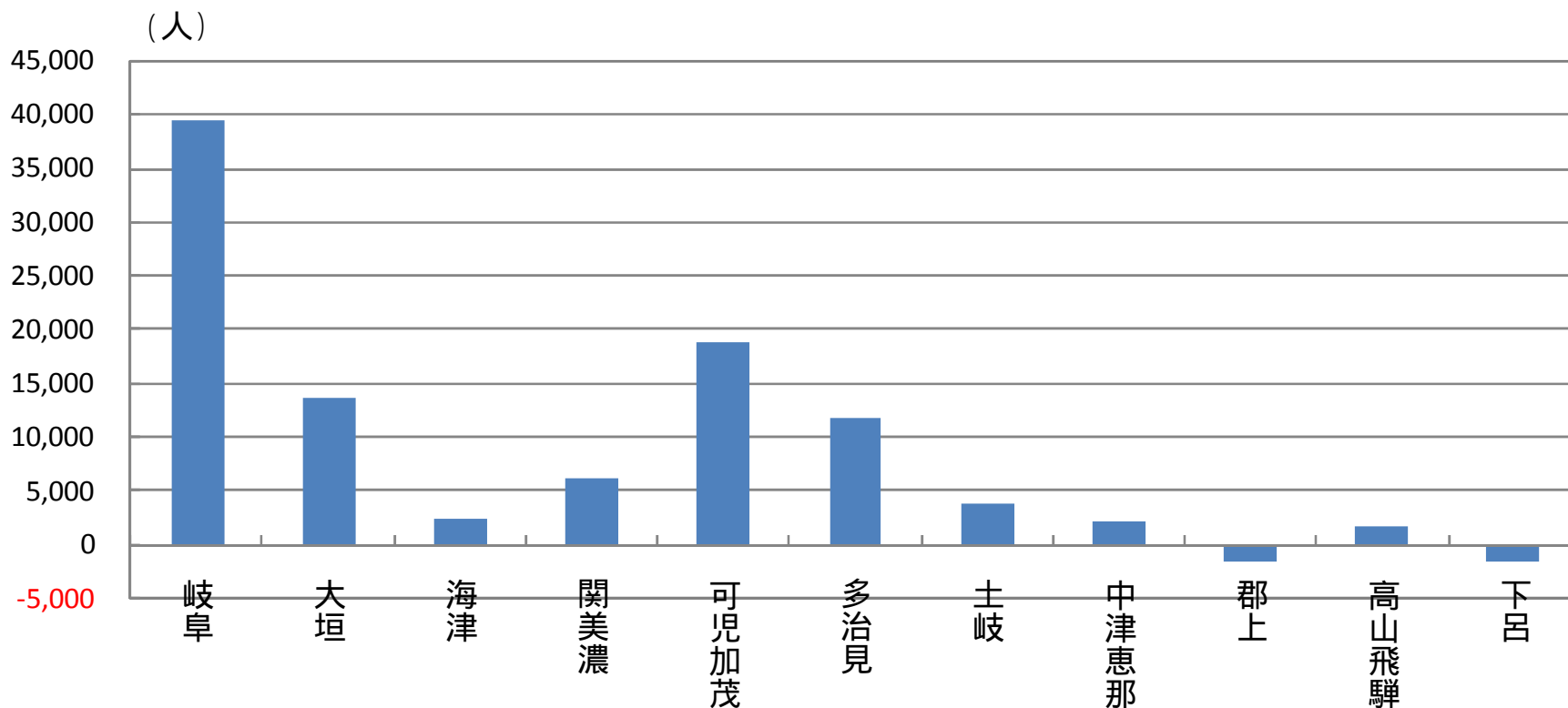
2005年→2035年の増減数

	2区分別人口					
	総人口	年少人口 (15歳未満)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	前期高齢者人 口 (65～74歳)	後期高齢者人 口 (75歳以上)
岐阜	-179,492	-58,322	-160,620	39,455	-3,405	42,860
大垣	-77,078	-23,289	-67,453	13,664	-2,222	15,886
海津	-10,415	-3,013	-9,763	2,361	8	2,354
関美濃	-28,399	-8,528	-26,177	6,306	-274	6,579
可児加茂	-40,628	-15,908	-43,516	18,797	1,814	16,983
多治見	-18,804	-8,597	-21,915	11,708	1,726	9,982
土岐	-27,978	-7,759	-24,034	3,815	-1,121	4,937
中津恵那	-39,002	-10,527	-30,742	2,266	-2,655	4,920
郡上	-16,666	-3,847	-11,442	-1,379	-1,716	338
高山飛騨	-32,009	-8,915	-24,823	1,728	-2,779	4,506
下呂	-13,771	-2,825	-9,404	-1,542	-1,864	322

備考：年齢不詳人口を按分したもの

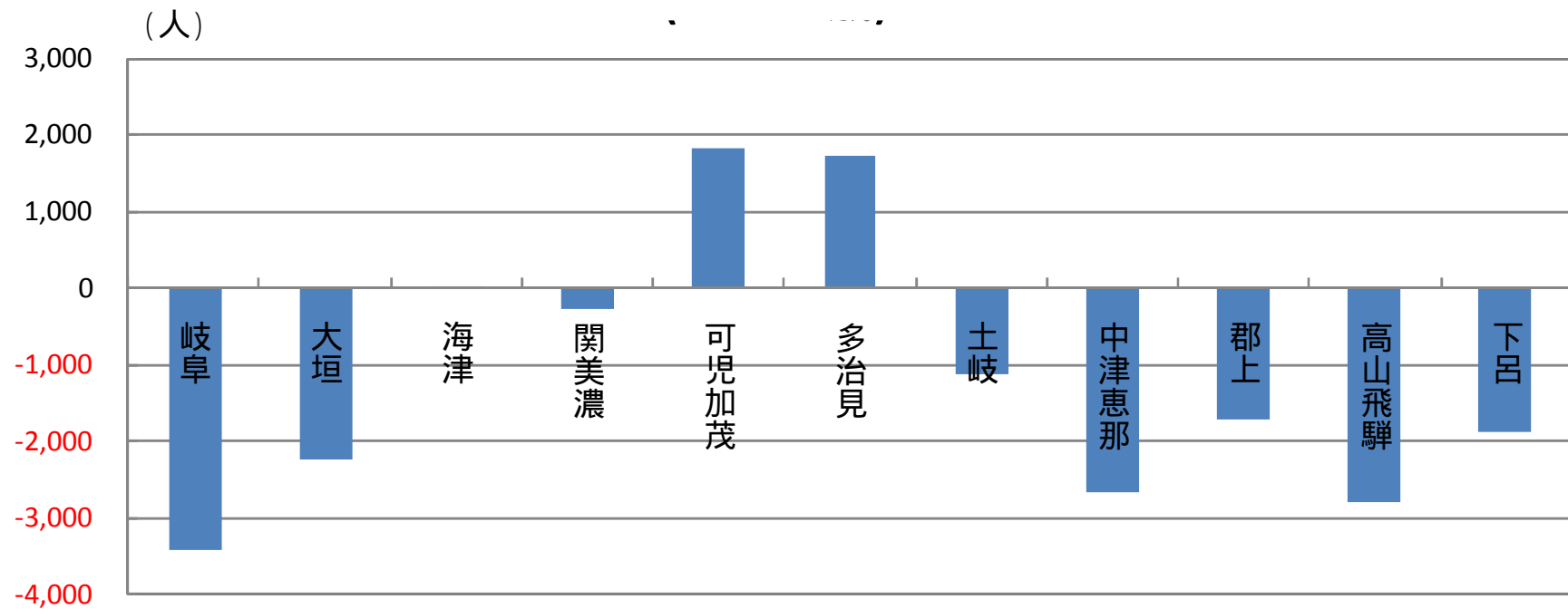
山間部の都市圏は現在の水準よりも高齢者は減少。
今後高齢者が急増していくのは、県南部の都市圏。

高齢者(65歳以上)の増減数(2005→2035)



多くの都市圏で前期高齢者は現在よりも減少。ただし現在比較的人口構成が若い、可児加茂、多治見等では前期高齢者は現在よりも増加。

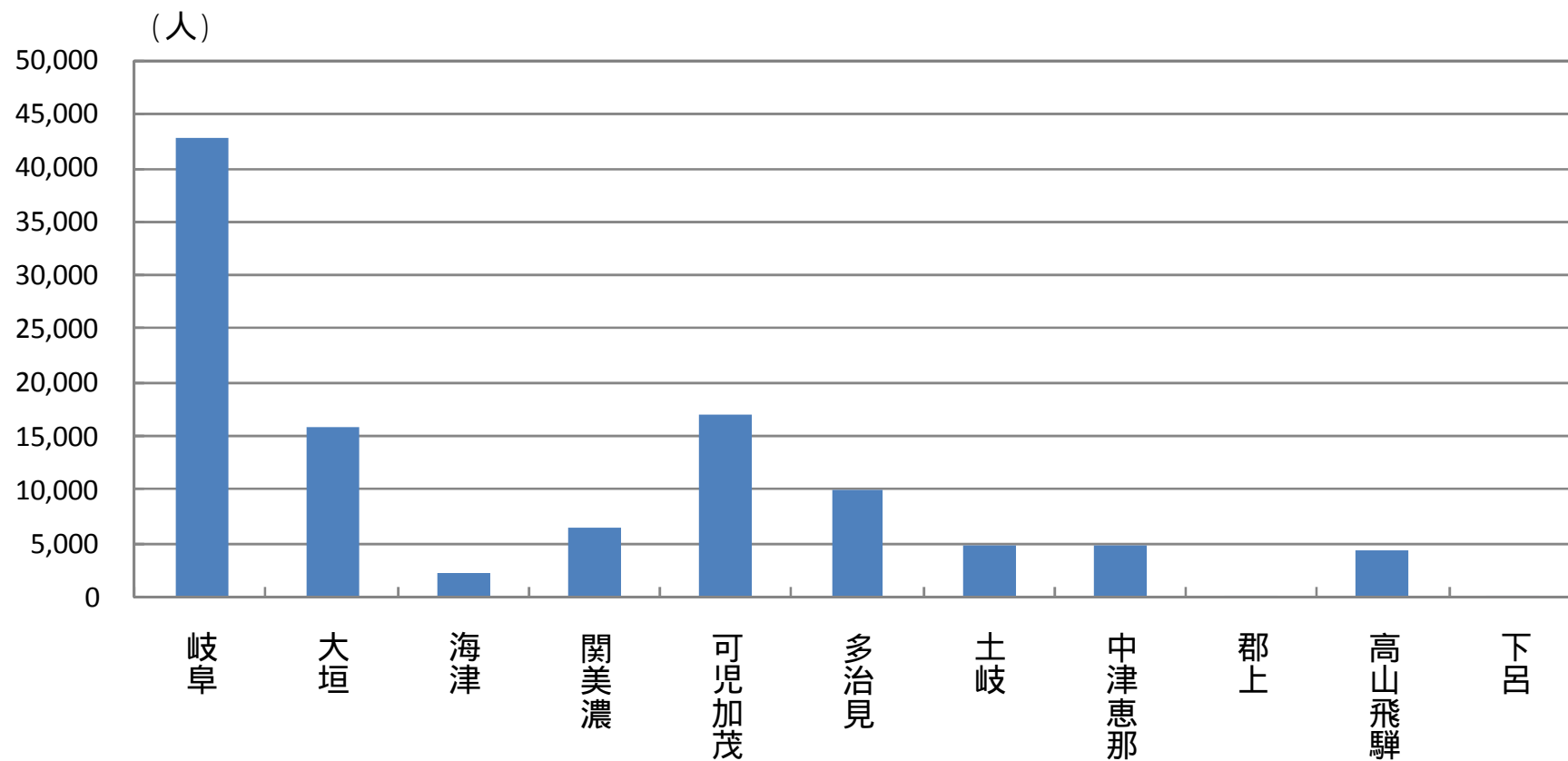
前期高齢者(65～74歳)の増減数(2005→2035)



なお、団塊ジュニア(第二次ベビーブーム世代・昭和40年代後半生まれ)が、2035年頃から高齢期を迎えるため、多くの都市圏で再び高齢者が増加することに注意

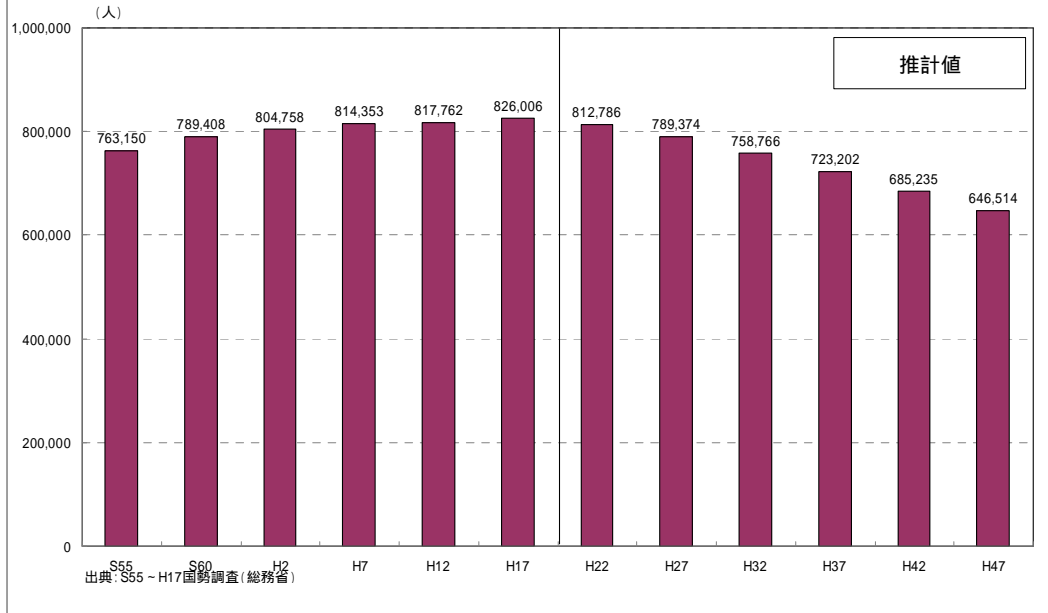
岐阜や大垣などの都市圏は後期高齢者が大きく増加。
一方、すでに高齢化が進んでいる都市圏は早い時期に
後期高齢者のピークを迎えるため、増加は少ない。

後期高齢者(75歳以上)の増減数(2005→2035)



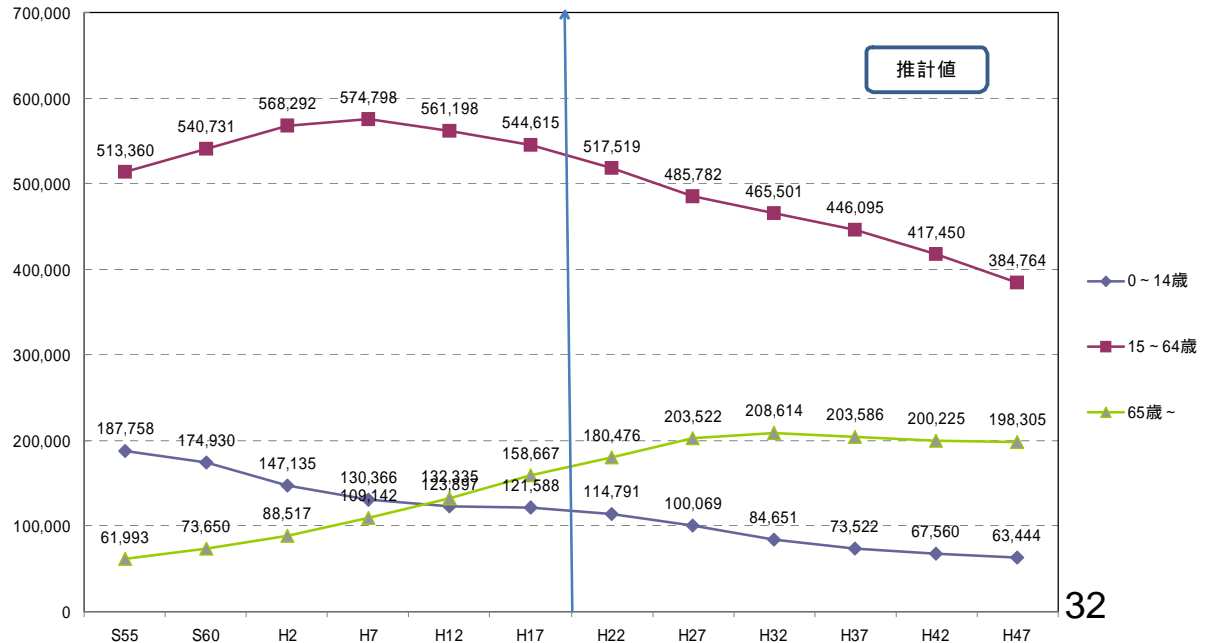
4 各都市圏ごとの推計結果

総人口の推移(岐阜都市圏)



岐阜都市圏は現在までの
周辺地域の人口増を反映
して減少は少なめ。
H32まで老年人口が急
増し、以降はわずかずつ
減少。

年齢3区分別人口の推移(岐阜都市圏)



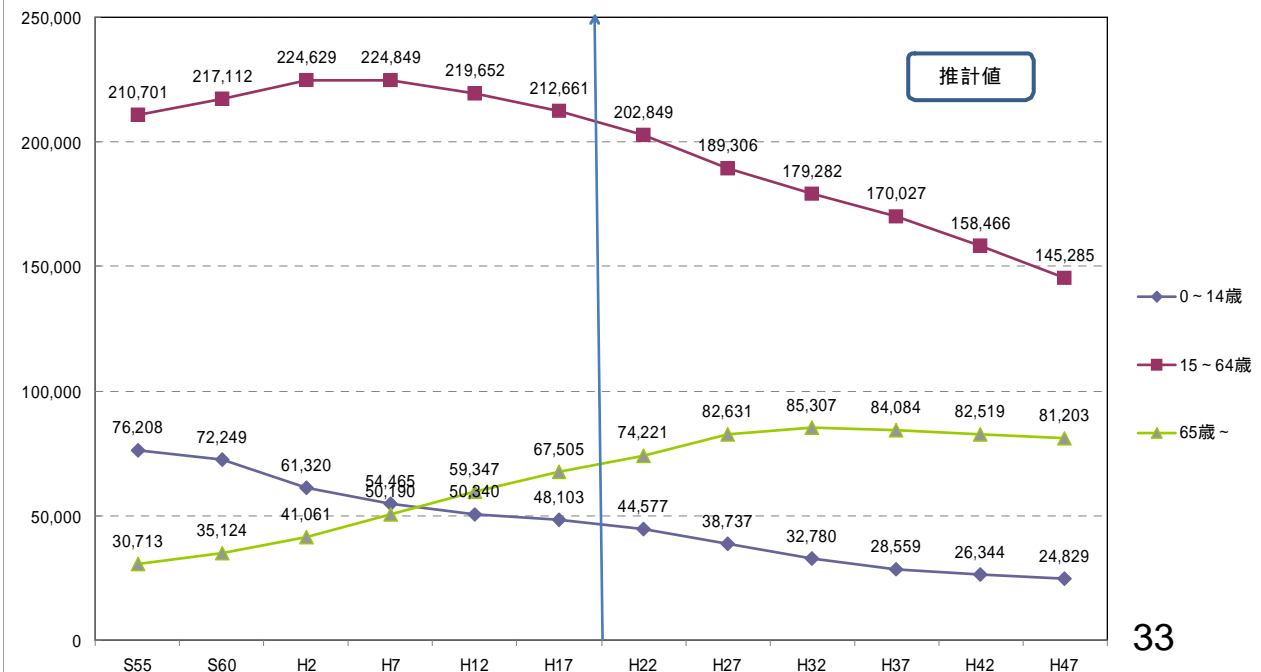
備考: 推計値については、年齢不詳人口を按分した

総人口の推移(大垣都市圏)



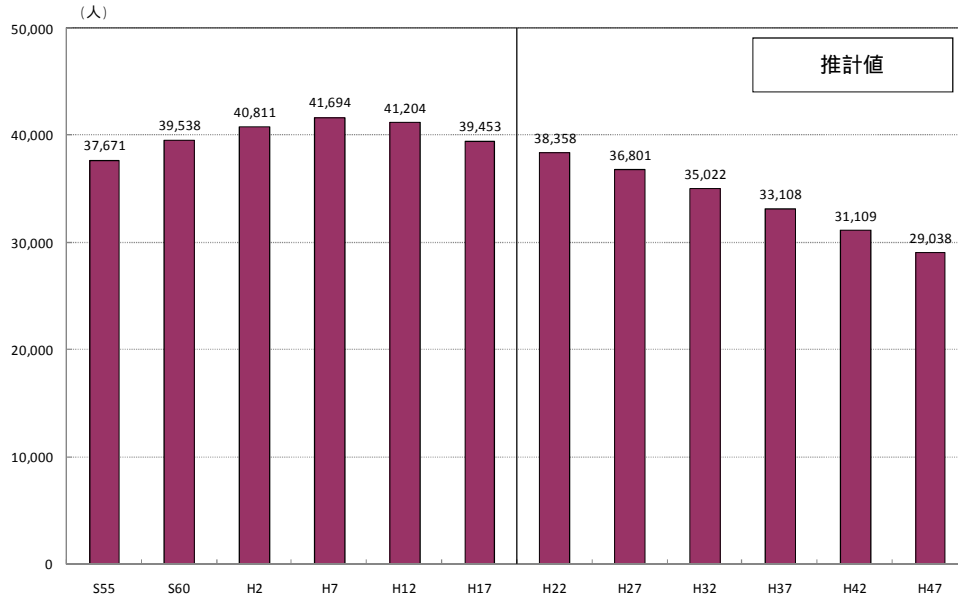
大垣都市圏は現在人口が増加している地域もあり、人口、15～64歳人口はほぼ県人口と同程度に減少。なお高齢者ははH32をピークに少しずつ減少。

年齢3区分別人口の推移(大垣都市圏)



備考: 推計値については、年齢不詳人口を按分したものと見なす。

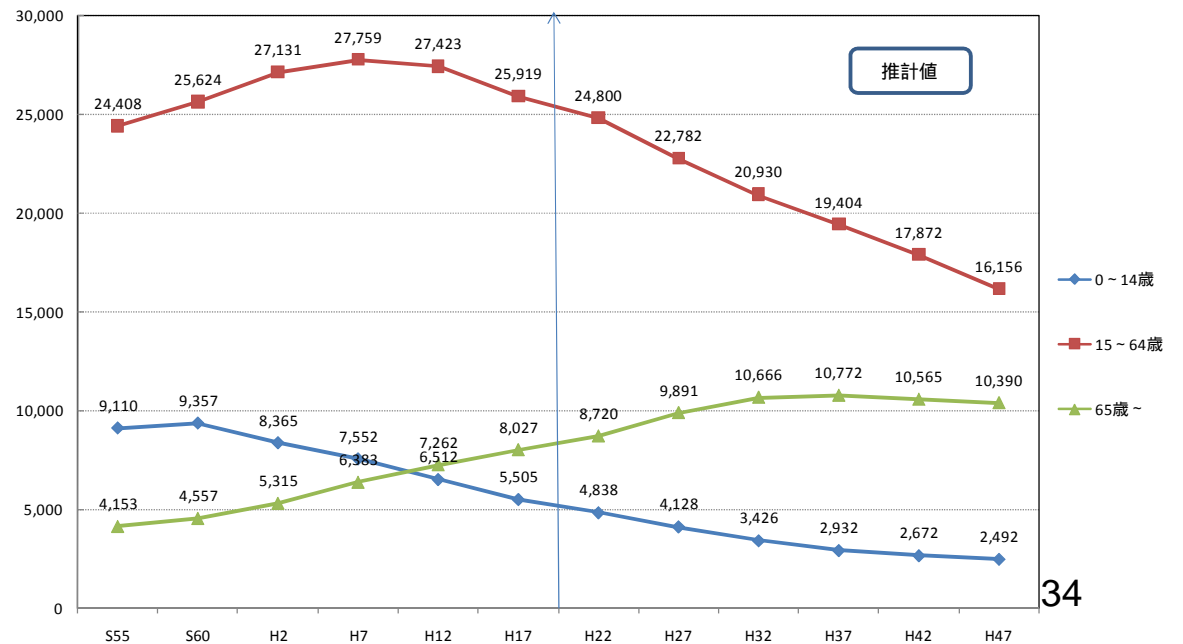
総人口の推移(海津都市圏)



出典: S55～H17国勢調査(総務省)

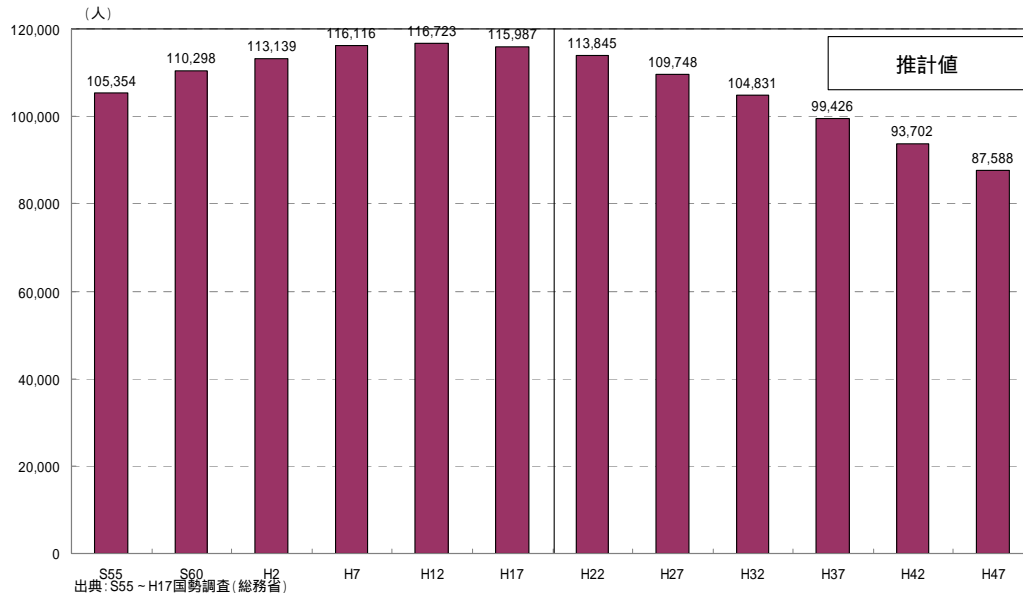
海津都市圏は比較的早いスピードで人口が減少。また、高齢者のピークはH37と比較的遅めであり、以後緩やかに減少。

年齢3区分別人口の推移(海津都市圏)



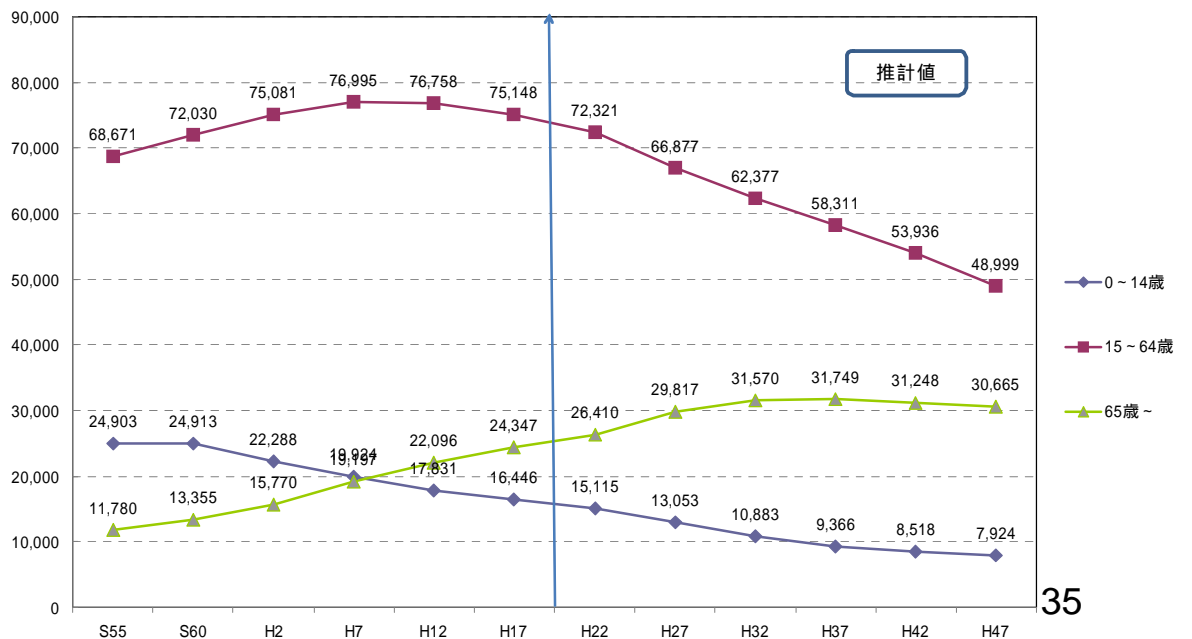
備考: 推計値については、年齢不詳人口を按分したもの

総人口の推移(関美濃都市圏)



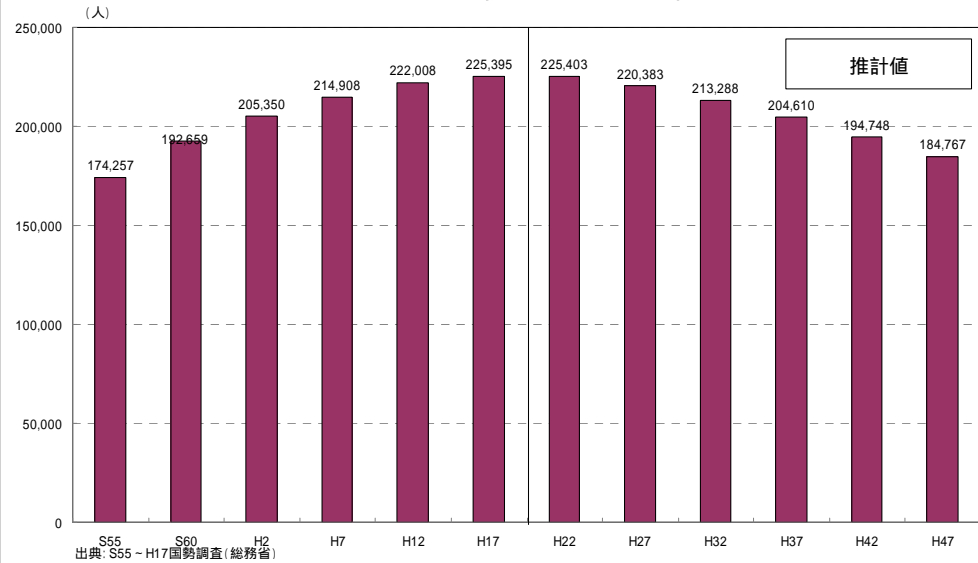
関美濃都市圏の人口は、
ほぼ県人口と同程度の動きで減少。なお、老年人口はH37にピークを迎え、以後緩やかに減少。

年齢3区分別人口の推移(関美濃都市圏)



備考: 推計値については、年齢不詳人口を按分したもの

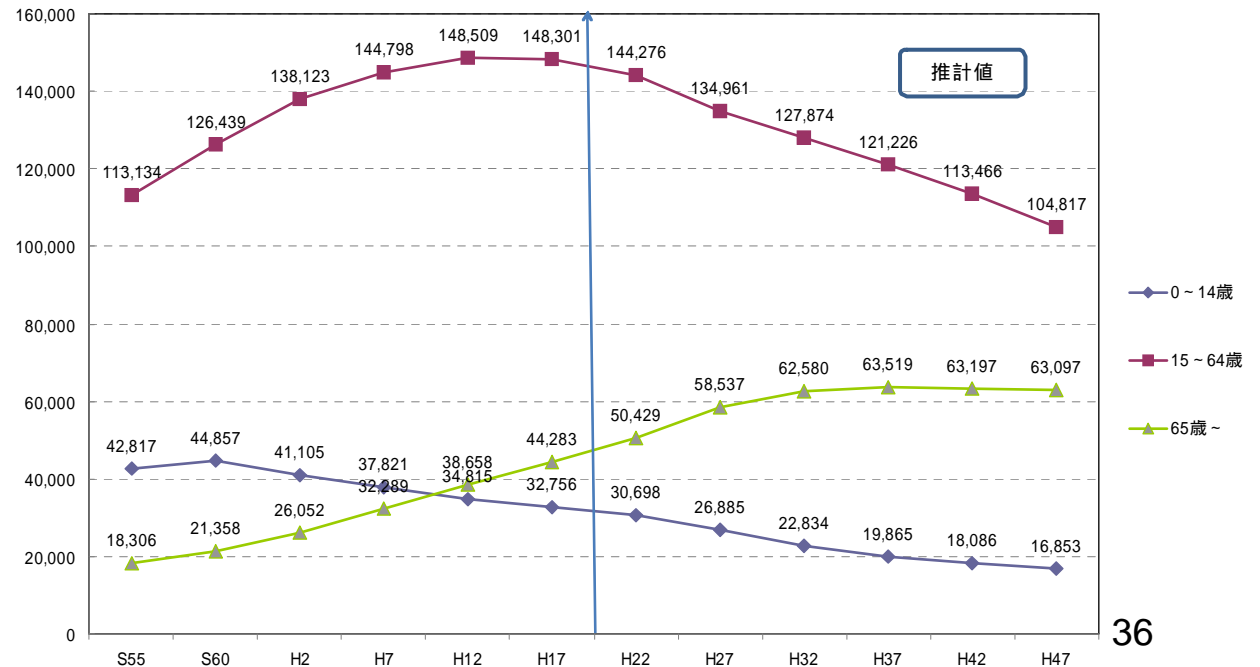
総人口の推移 (可児加茂都市圏)



可児加茂都市圏は現在までの人口増を反映し、減少幅は小さめ。ただし、過去の住宅事情による人口急増を反映し、老年人口がH37まで急速に増加していき、以後横ばいとなる。

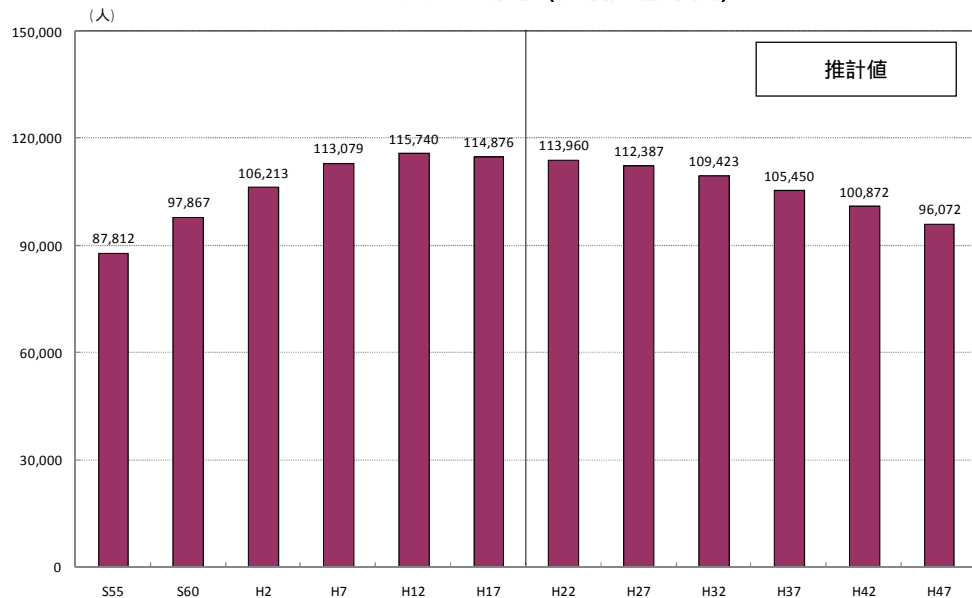
外国人の動向によってはさらに人口減少が進む可能性もある

年齢3区分別人口の推移 (可児加茂市圏)



備考：推計値については、年齢不詳人口を按分した

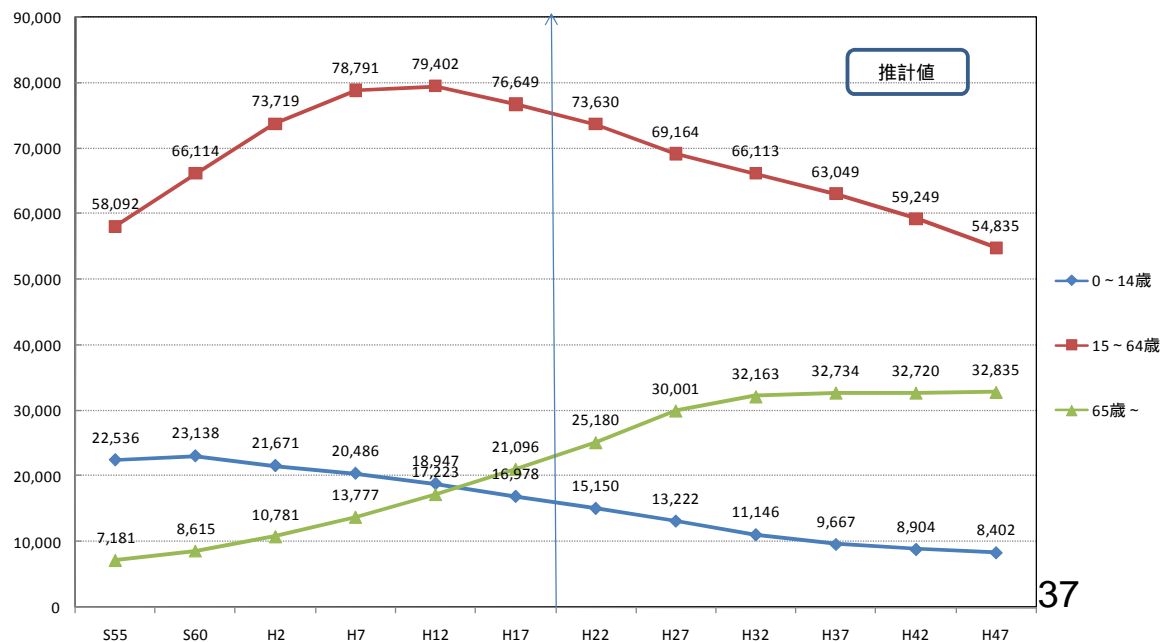
総人口の推移 (多治見都市圏)



出典: S55 - H17国勢調査(総務省)

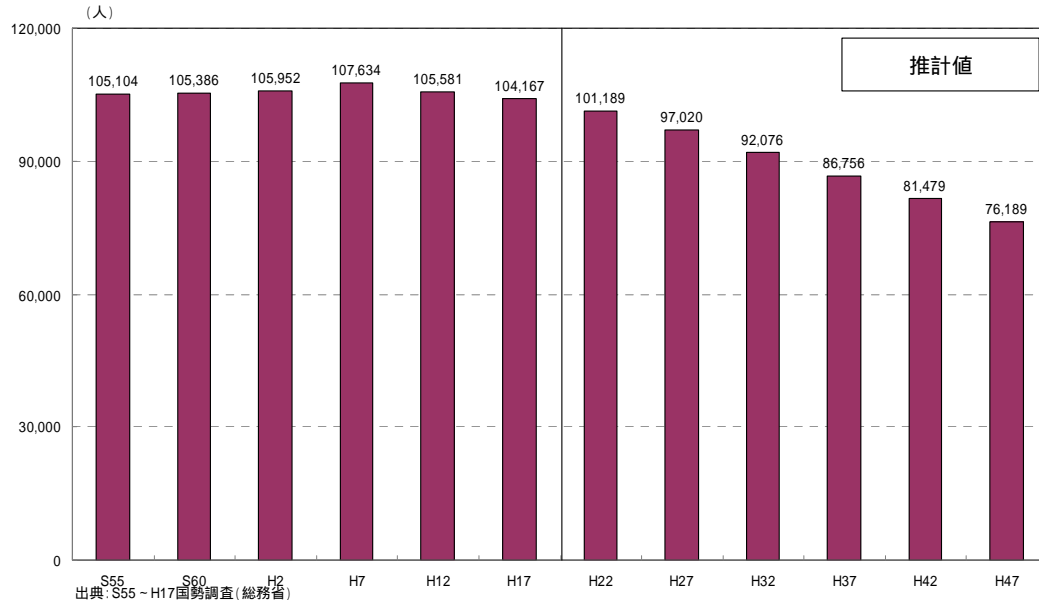
多治見都市圏は、現在年齢構成が比較的若いこともあり、減少幅は小さめ。ただし、その影響から老年人口が急速に増加していき、ピークも長く続く。

年齢3区分別人口の推移 (多治見都市圏)



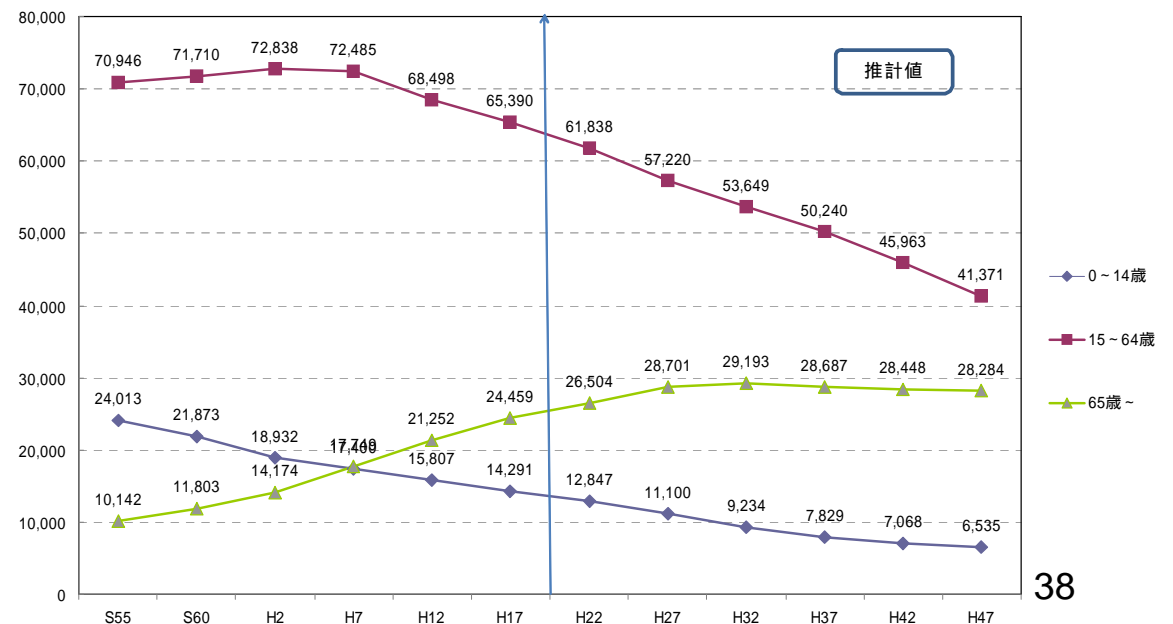
備考: 推計値については、年齢不詳人口を按分したもの

総人口の推移(土岐都市圏)



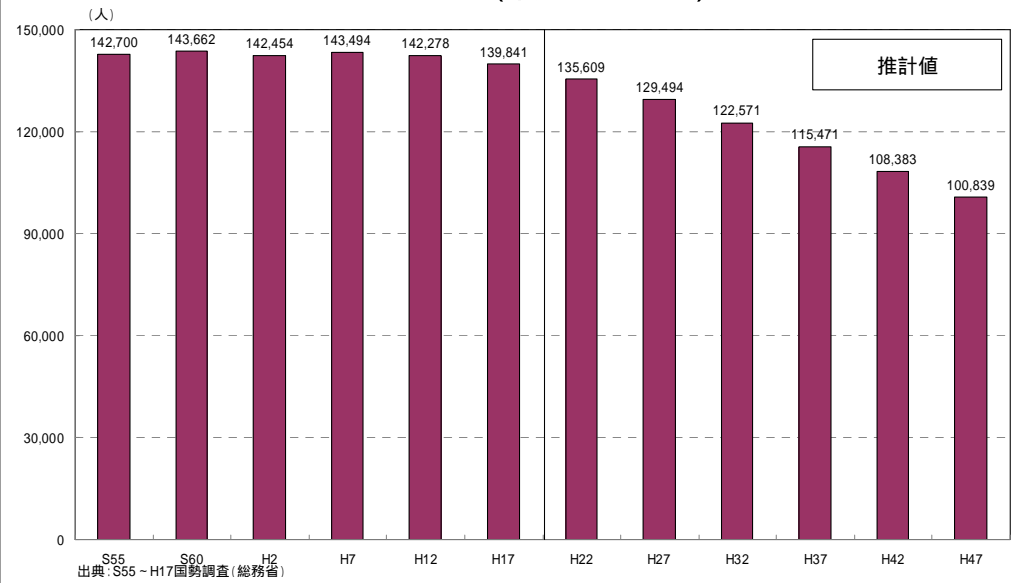
土岐都市圏は総人口、15～64歳人口ともに県を上回るペースで減少を続ける。また、老年人口はH32にピークを迎え、以後緩やかに減少。

年齢3区分別人口の推移(土岐都市圏)



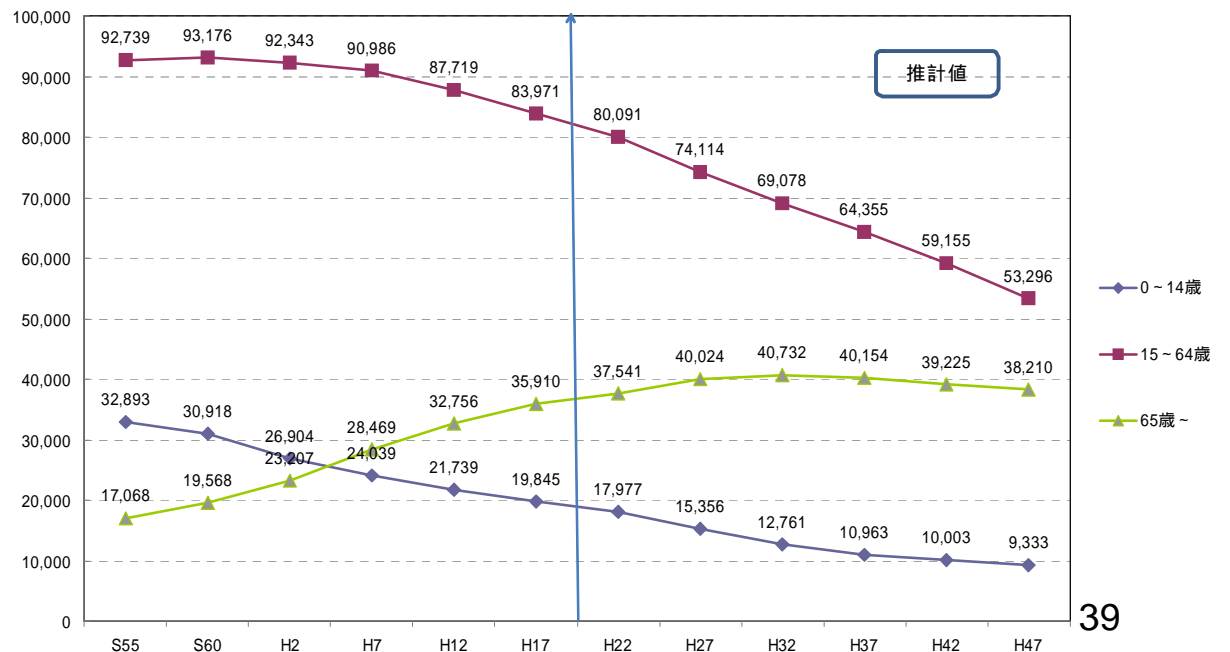
備考: 推計値については、年齢不詳人口を按分した

総人口の推移(中津恵那都市圏)



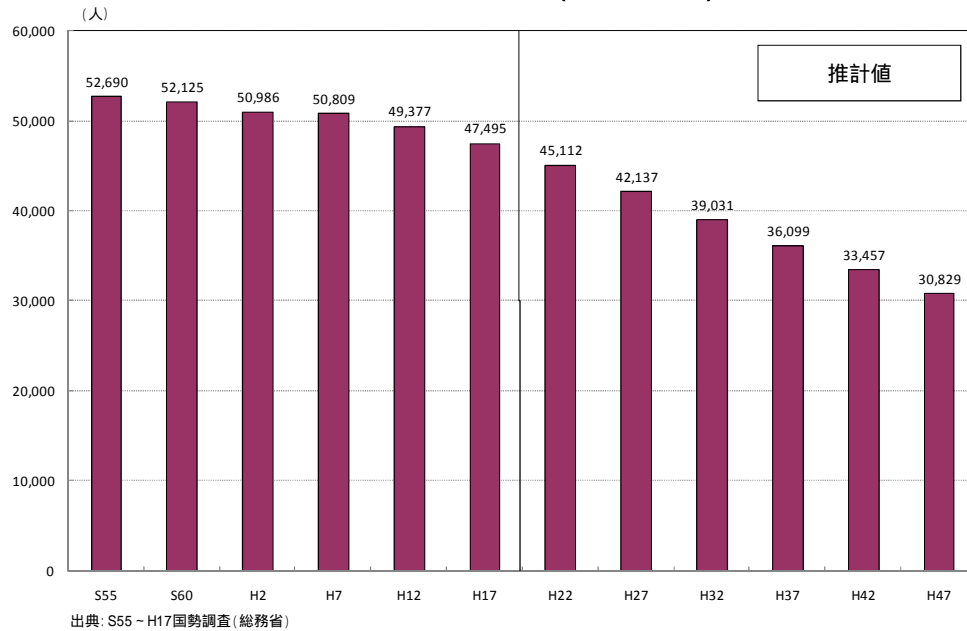
中津恵那都市圏は人口、15～64歳人口ともに県を上回るペースで減少していく。また、老年人口はH32にピークを迎え、以後減少。

年齢3区分別人口の推移(中津恵那都市圏)



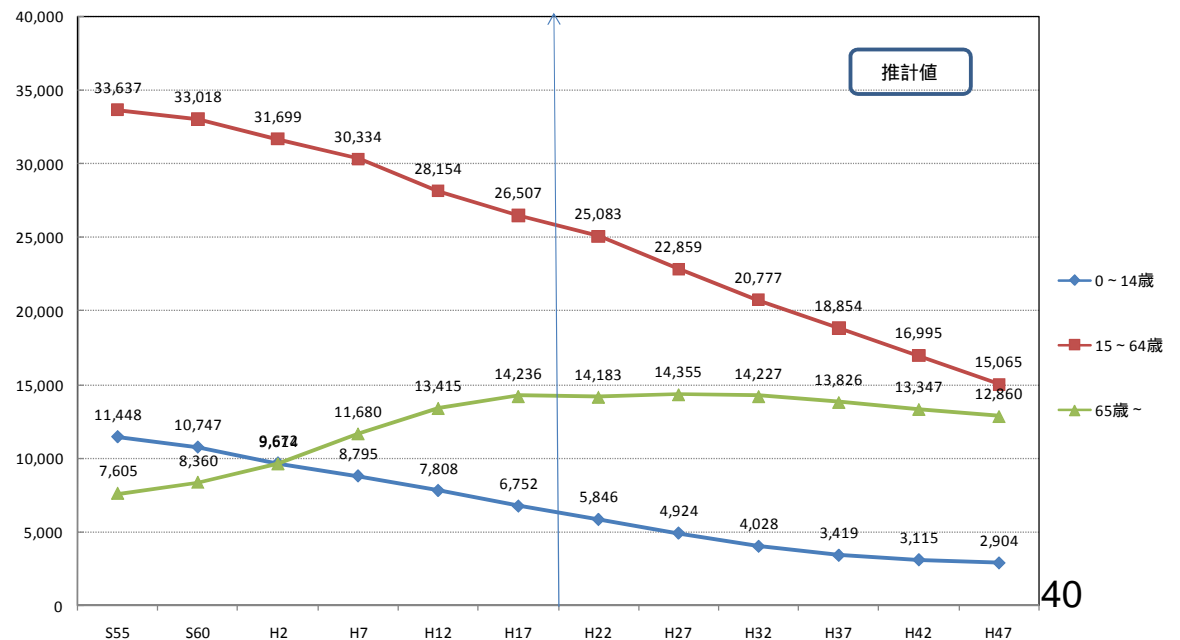
備考: 推計値については、年齢不詳人口を按分した

総人口の推移 (郡上都市圏)



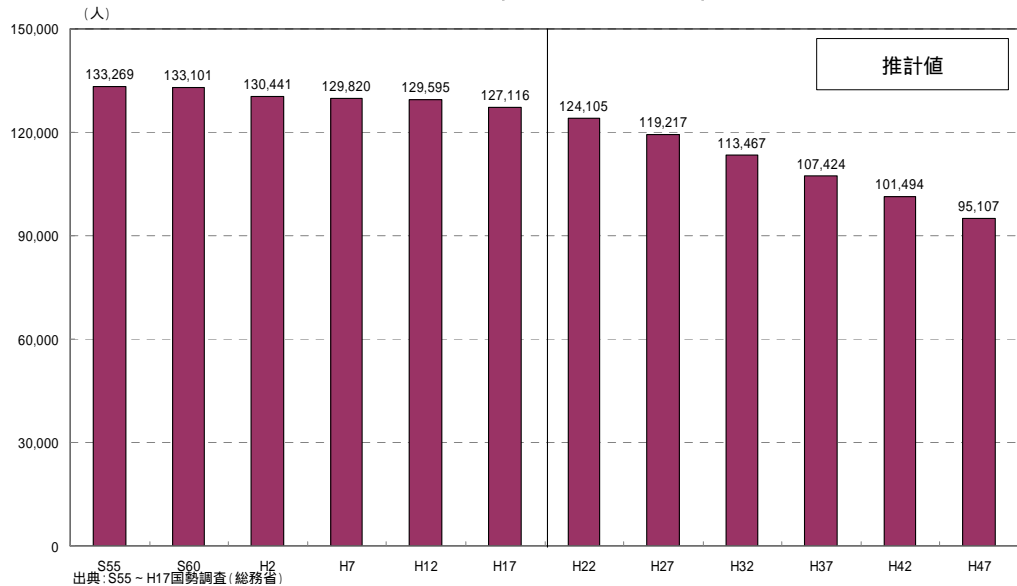
郡上都市圏は、現在までの人口減少がゆるむことなく続く。15～64歳人口の減少が著しく、老年人口と同規模まで接近する。老年人口はH27にピークを迎え、以後減少。

年齢3区分別人口の推移 (郡上都市圏)



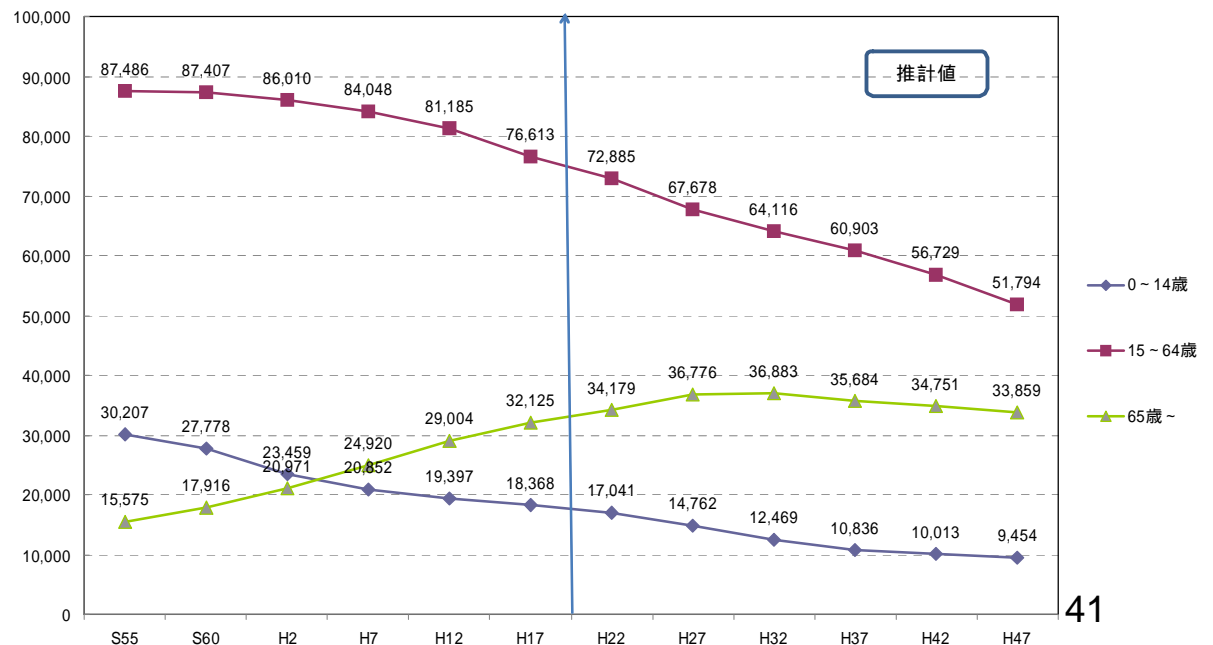
備考: 推計値については、年齢不詳人口を按分したもの

総人口の推移(高山飛騨都市圏)



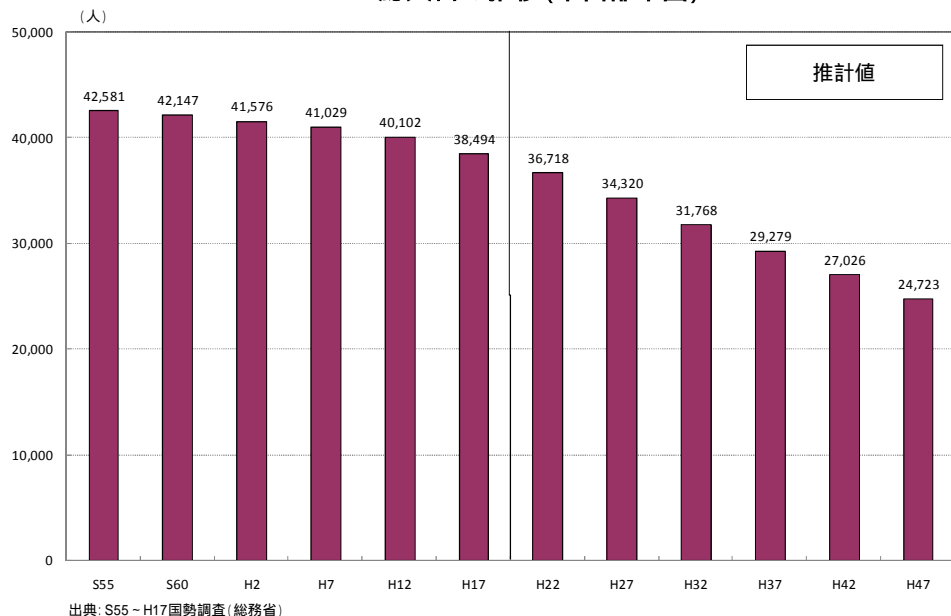
高山飛騨都市圏はこれまでと同様の減少トレンドが続く。また、老年人口はH32にピークを迎え、以後減少していく。

年齢3区分別人口の推移(高山飛騨都市圏)



備考：推計値については、年齢不詳人口を按分した

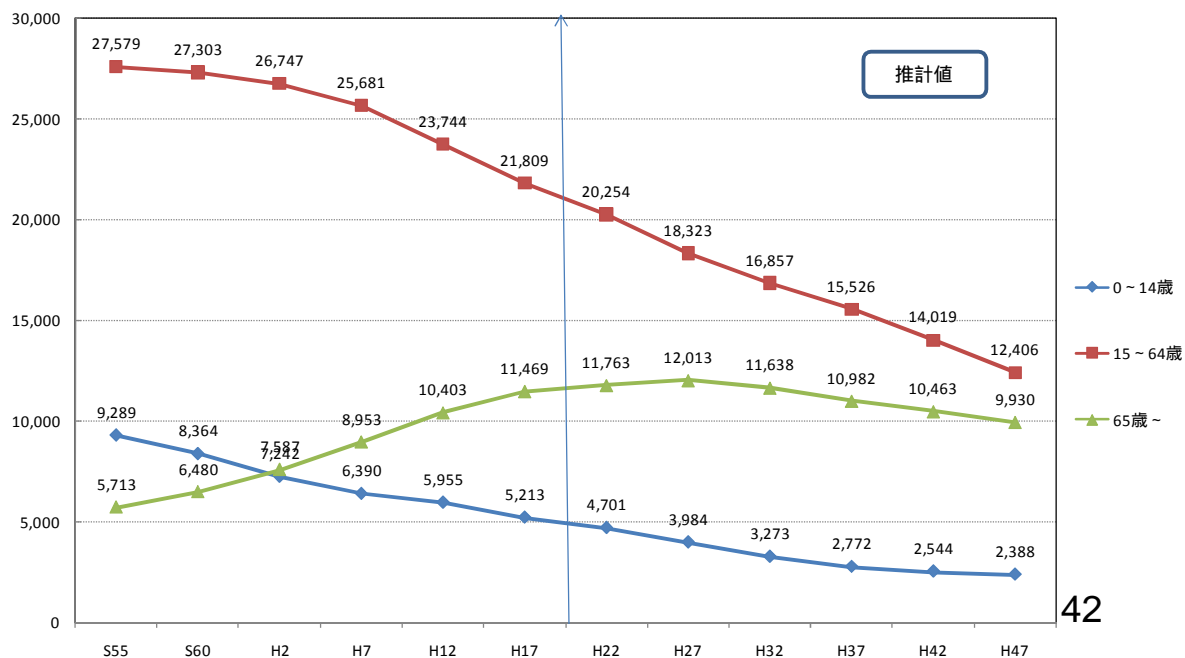
総人口の推移(下呂都市圏)



下呂都市圏は人口、15～64歳人口とも減少がゆるむことなく続く。早い時期に高齢化が進んだことから老年人口はH27頃ピークを迎え、以後大きく減少していく。

老年人口が減少に転じ、人口減少社会の様相が変化

年齢3区分別人口の推移(下呂都市圏)



備考: 推計値については、年齢不詳人口を按分したもの

年少人口、現役世代の人口が減少していく流れはどの都市圏も同じ。また、高齢者の増加、高齢化率の上昇も同様の傾向。

ただし、現在の人口の年齢構造が都市圏毎に異なるため、現役世代減少のスピード、高齢者人口がピーク迎え減少に転ずる時期等は都市圏毎に異なる。

高齢化率等だけではそうした変化や、現実増加するボリュームは把握できず、地域で対応すべき課題を見誤る危険がある。

実数にきちんと目を向け、人口構成が変化していく現実を着実に把握することが必要不可欠。